

社会学基礎論

Foundations of Sociology

松本 康 (MATSUMOTO YASUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	MB041
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC5010
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

大学院レベルでの社会学的研究に必要な理論的基礎について理解を深める。理論的研究を志す学生はもちろんのこと、経験的研究を志す学生にとっても、各自の研究を理論的に定位することができるようにする。あわせて研究倫理についても研修する。

The objective of this course is to introduce students to basic understanding of sociological theories required at the graduate level. It enables those who address empirical research, as well as those interested in theoretical issues, to consider individual study theoretically. The course also gives instruction on research ethics.

授業の内容 / Course Contents

社会学は、市民革命と産業革命を背景として、18世紀末から19世紀初頭にヨーロッパにおいて形成され、20世紀に入って、米国で著しい発展をみた。この授業では、草創期の社会学（サンシモン、コント、スペンサー）の概要を理解したうえで、闘争理論（マルクス）、社会学的実証主義（デュルケム）、相互作用論（ジンメル）、理解社会学（ヴェーバー）など19世紀から20世紀初頭にかけてのヨーロッパ社会学の展開を追うとともに、米国における社会学理論の発展を、シカゴ学派、構造機能主義、コロンビア学派の計量研究の3つの系譜によって整理する。

Sociology was shaped during the late 18th and early 19th centuries with bourgeois and industrial revolutions as backdrop and has prominently developed in the 20th century in the US. This course introduces students to sociological thoughts in the early days (Saint-Simon, August Comte, and Herbert Spencer), followed by conflict theory (Karl Marx), interactionism (Georg Simmel), and interpretive sociology (Max Weber) developed during the 19th and early 20th centuries in Europe, and describes trends of American sociology in the 20th century focusing on the Chicago School, structural functionalism, and the Columbia School of Quantitative Sociology; all three are the starting points of contemporary sociology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：草創期の社会学：サンシモン、コント、スペンサー
- 3 回：闘争理論の源流：カール・マルクス
- 4 回：社会学の実証主義：エミール・デュルケム
- 5 回：相互作用と社会化の諸形式：ゲオルク・ジンメル
- 6 回：討論：マルクス、デュルケム、ジンメル
- 7 回：都市と社会改革：ロバート・パークとシカゴ学派
- 8 回：理解社会学：マックス・ヴェーバー
- 9 回：構造機能主義(1)：タルコット・パーソンズ
- 10 回：討論：シカゴ学派、ヴェーバー、パーソンズ
- 11 回：構造機能主義(2)：マートンとスメルサー
- 12 回：計量社会学：ラザースフェルドとコロンビア学派
- 13 回：シンボリック相互作用論と現象学的社会学
- 14 回：討論：マートン、ラザースフェルド、ブルーマー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リーディング・アサインメントにもとづく小レポート課題を授業期間中 10 回課す。また、討論の回までにそれまでの講義内容を復習し、疑問点を整理しておくこと。授業期間中に、JSPS 研究倫理 e ラーニングコースを修了すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小レポート 10 回分:70% 授業へのリアクション:30%

eL CoRE (JSPS 研究倫理 e ラーニングコース) を修了していない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

授業時にレジュメを配布する。リーディング・アサインメントの教材は Canvas LMS 上でも利用できる。

参考文献 / Readings

C.W.ミルズ 『社会学の想像力』 筑摩書房 2017 年 4480097813

マルクス＝エンゲルス 『共産党宣言 共産主義の原理』 大月書店 1952 年

デュルケム 『社会学的方法の規準』 岩波書店 1978年 4003421434

松本康編 『都市社会学セレクション1 近代アーバニズム』 日本評論社 2011年 453558592

マックス・ヴェーバー 『社会学の根本概念』 岩波書店 1972年 4003420969

タルコット・パーソンズ 『社会体系論』 青木書店 1974年 425074017

ロバート・K・マートン 『社会理論と社会構造』 みすず書房 1961年 4622017059

8. ラザースフェルド他『ピープルズ・チョイス』 芦書房、1987年

9. ハーバート・ブルーマー『シンボリック相互作用論』 勁草書房、1991年

翻訳については、他の版を使用してもかまわないし、外国語訳を使用してもかまわない。入手不可能なものは、図書館を利用すること。詳細は第1回目に指示する。

その他/ Others

小レポート及び eL CoRE 修了証の提出は原則として Canvas LMS を使用する。

現代社会学理論

Modern Sociological Theory

社会意識を読み解くための理論

片上 平二郎 (KATAKAMI HEIJIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB051

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

講読によって現代社会学理論の潮流を知る。

This course purposes is to learn about the current trends in contemporary sociological theory by reading texts.

授業の内容 / Course Contents

この授業は現代社会学理論の潮流を知るために、理論的文献を読んでいく授業である。今期は社会現象と社会意識の関係をとらえるための理論的な視座を学んでいく。

発表は、原則的に文章化したレジュメを用意してもらうかたちとなる。

The course is composed of readings and discussions. Students learn the current trends in contemporary sociological theory through the reading of sociological texts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：文献講読

3 回：文献講読

4回：文献講読
 5回：文献講読
 6回：文献講読
 7回：文献講読
 8回：文献講読
 9回：文献講読
 10回：文献講読
 11回：文献講読
 12回：文献講読
 13回：文献講読
 14回：文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講読の授業であるため、予習として、参加者全員がテキストの該当部を毎回事前に読んでいることを前提として授業を行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と討論:100%

テキスト / Textbooks

テリー・イーグルトン (『イデオロギーとは何か』 平凡社 1999 4582762816 -

上述にあげたものはあくまで候補であり、実際には受講生との相談の上、読んでいく書物を決めたい。また、テキストに付随し、関連した文献を読むこともある。

参考文献 / Readings

奥村隆編 『戦後日本の社会意識論 -- ある社会学的想像力の系譜』 有斐閣 2023 9784641174900

ジョン・ストーリー 『ポップ・カルチャー批評の理論: 現代思想とカルチュラル・スタディーズ』 小鳥遊書房 2023 4867800147

相互行為論

Social Interaction Theory

相互行為論の基本的な考え方・分析の態度

是永 論 (KORENAGA RON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB052

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会学における相互行為論の基本的な考え方を理解し、事例分析の能力を習得する。

This course aims to study social interaction in sociology and acquire skills to analyse data.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、従来の社会学におけるアプローチに加えて、E.ゴフマンの著作およびエスノメソドロロジーの視点から、相互行為の分析方法について検討する。データに志向した研究の方法について検討するために、履修者自身が企画するデータセッションを行う。

In addition to conventional sociological approaches, this course will accord students the methods to analyse social interaction from the viewpoint of E.Goffman's works and ethnomethodology. Students will also have to conduct data-sessions by themselves to consider data-oriented methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：文献の報告・事例の検討

- 3回：文献の報告・事例の検討
 4回：文献の報告・事例の検討
 5回：文献の報告・事例の検討
 6回：文献の報告・事例の検討
 7回：文献の報告・事例の検討
 8回：データ・セッション
 9回：データ・セッション
 10回：データ・セッション
 11回：データ・セッション
 12回：データ・セッション
 13回：データ・セッション
 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加の積極性:50% 報告・発表内容（事例分析にかかわる高水準の報告を含む）:50%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Dennis,A., R. Philburn and G. Smith Sociologies of interaction Polity Press 2013 9780745646077 -

授業時に指示する。

参考文献 / Readings

山崎敬一ほか編 『エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック』 新曜社 2023 9784788517943

授業時に適宜紹介する。

社会階層論

Social Stratification

格差と不平等の社会学

永吉 希久子 (NAGAYOSHI KIKUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB053
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC5010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、社会階層研究の日本語・英語の文献を通して、格差がどのように生じているのかについて考えるための土台となる知識を身につけ、議論できるようになることにある。学生は割り当てられた文献のレビューを行い、コメントをつけてプレゼンを行うこと、またそのプレゼンに対しディスカッションを行うことが求められる。

This seminar aims to provide students with foundational knowledge for thinking about and discussing how inequality arises through the Japanese and English literature on the study of social stratification. Students will be required to review the assigned literature and make a presentation with comments. Following the report by the student in charge, all students will engage in a discussion.

授業の内容 / Course Contents

授業では初回に担当を割り振り、担当回の学生は、予め社会階層に関するテキストの指定範囲、もしくは指定した日本語・英語論文のレビューを行い、授業で報告する。この報告を通し、社会階層と不平等研究の基本的な概念や理論的な枠組みの知識を身につけることが期待される。

In the first session of the class, students will be assigned a literature review. The student in charge of the assigned session will review a specified range of texts or a selected Japanese/English article on social stratification and report it in class. Through these reports, students are expected to acquire knowledge of the basic concepts and theoretical frameworks of social stratification and inequality research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・分担の割り当て
- 2回：『格差の社会学入門』2章「所得の格差」3章「貧困と生活保護」
- 3回：『格差の社会学入門』4章「非正規雇用」5章「社会階層と階級」
- 4回：『格差の社会学入門』6章「世代間移動」7章「学歴社会」
- 5回：『格差の社会学入門』8章「機会の不平等（1）」9章「機会の不平等（2）」
- 6回：『格差の社会学入門』10章「機会の不平等（3）」「おわりに」
- 7回：Relational Inequality Chap. 1 “Generating Inequality”
- 8回：Relational Inequality Chap. 2 “Observing Inequality”
- 9回：Relational Inequality Chap. 3 “Relational Inequality Theory”
- 10回：Relational Inequality Chap. 4 “Organizational Inequality Regime”
- 11回：Relational Inequality Chap. 5 “Exploitation”
- 12回：Relational Inequality Chap. 6 “Social Closure”
- 13回：Relational Inequality Chap. 7 “Relational Claims-Making”
- 14回：Relational Inequality Chap. 9 “Expanding the Moral Circles”

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定文献は予め目を通しておくこと。発表担当者はレジюмеを用意する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 担当回での報告:60% 授業への貢献（発言など）:30% コメントシート:10%

テキスト / Textbooks

平沢和司 『格差の社会学入門（第2版）』 北海道大学出版会 2021 9784832968813 ○

Tomaskovic-Devey, Donald and Dustin Avent-Holt Relational Inequalities: An Organizational Approach
Oxford University Press 2019 9780190624422 -

1つ目のテキストは入手しておく。2つ目のテキストについては初回に案内する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

初回に授業の方針を説明し、割り当ても行うので、履修希望者は必ず出席すること。

ジェンダーとセクシュアリティ

Gender and Sexuality

クィア・スタディーズの基本的視座を学ぶ

杉浦 郁子 (SUGIURA IKUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB054

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

クィア・スタディーズの理論や歴史を学ぶことで、その基本的な視座を理解する。

This course aims to give students a grasp of the fundamental ideas of queer studies by examining current theories and histories.

授業の内容 / Course Contents

国内外の異なる文脈においてなされたクィア・スタディーズを学ぶ。関連文献を読み、議論することで、クィア・スタディーズの基本的な視座や、学際的、方法論的、理論的パラダイムについての理解を深める。

By reading and discussing relevant literature, students will deepen their understanding of not only the fundamental ideas, but also the various interdisciplinary, methodological, and theoretical paradigms in the field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、講読する文献の紹介、担当決め

2 回：受講者の問題関心についての報告

3 回：文献講読・ディスカッション①

- 4回：文献講読・ディスカッション②
 5回：文献講読・ディスカッション③
 6回：文献講読・ディスカッション④
 7回：文献講読・ディスカッション⑤
 8回：文献講読・ディスカッション⑥
 9回：文献講読・ディスカッション⑦
 10回：文献講読・ディスカッション⑧
 11回：文献講読・ディスカッション⑨
 12回：文献講読・ディスカッション⑩
 13回：文献講読・ディスカッション⑪
 14回：文献講読・ディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講読する文献を読んだうえで論点や疑問点を整理して授業に臨むこと。報告者は、報告用の資料を作成し、事前に共有すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:50% 議論への貢献:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

森山至貴 『LGBTを読み解く——クィア・スタディーズ入門』 ちくま新書 2017 4480069437

授業中に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC ないしモバイル端末。

その他 / Others

講読する文献について。初回の授業で、講読文献の候補を複数提示する。受講希望者と相談のうえ、講読文献を決定する。受講者からの提案も歓迎する。

人種とエスニシティ

Race and Ethnicity

人種・エスニシティをめぐる社会学(人類学) 理論を学ぶ

小林 真生 (KOBAYASHI MASAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB055

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

教科書と具体的な事例分析を通じ、人種とエスニシティをめぐる論点についてより掘り下げた理解を深め、各自の修士論文に活かすことができる視座を発見することを、本授業の目標とする。

Students will deepen their understanding of arguments about human race and ethnicity by analyzing specific cases and studying textbooks. Students will aim to discover perspective useful for their master theses.

授業の内容 / Course Contents

履修者の修士論文の主題と人数に応じて、適切な数と内容の論文を取り上げ、グローバル化をめぐる社会学・人類学の主要な理論について掘り下げて学んでいく。

Professor will select suitable and enough theses depending on students' master thesis subjects and number of students. Students will dig deeper into major sociology and anthropology theories surrounding globalization.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：文献講読＋グループ・ディスカッション 1

- 3回：文献講読＋グループ・ディスカッション 2
 4回：文献講読＋グループ・ディスカッション 3
 5回：文献講読＋グループ・ディスカッション 4
 6回：文献講読＋グループ・ディスカッション 5
 7回：文献講読＋グループ・ディスカッション 6
 8回：文献講読＋グループ・ディスカッション 7
 9回：文献講読＋グループ・ディスカッション 8
 10回：文献講読＋グループ・ディスカッション 9
 11回：文献講読＋グループ・ディスカッション 10
 12回：文献講読＋グループ・ディスカッション 11
 13回：文献講読＋グループ・ディスカッション 12
 14回：文献講読＋グループ・ディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・毎回の授業の前に、その回で扱う部分の教科書の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。
- ・履修者の希望等に応じて、履修者の論文進捗状況の報告や、外部者による講演を実施することもある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容・ディスカッションへの貢献度によって、総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

初回授業で履修者の専門を確認のうえ、指定する。

参考文献 / Readings

適宜、授業のなかで提示していく。

社会老年学

Social Gerontology

安藤 孝敏 (ANDO TAKATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB056
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC5010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「高齢社会における高齢者」の理解を中心に据え、自分の研究課題や問題意識と関連させて、社会老年学とはどういう学問であるのかを理解する。

Students will focus on understanding senior citizens living in aging society. Students will understand social gerontology by linking it with their research subjects and issue awareness.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、社会老年学の最新の文献から、受講者が興味・関心のある文献を選んで発表し、その内容についてディスカッションする形式で進める。発表する文献は事前に配布し、当日はその文献の内容をまとめたレジュメなどを用意する。発表する文献は受講者と協議して決定する。

In this class, students will select and present articles that they are interested in from the latest literature on social gerontology, and proceed in a format in which they discuss the content. Papers to be presented will be distributed in advance, and a resume summarizing the contents of the papers will be prepared on the day. The literature to be presented will be decided in consultation with the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献の発表とディスカッション
- 3回：文献の発表とディスカッション
- 4回：文献の発表とディスカッション
- 5回：文献の発表とディスカッション
- 6回：文献の発表とディスカッション
- 7回：文献の発表とディスカッション
- 8回：文献の発表とディスカッション
- 9回：文献の発表とディスカッション
- 10回：文献の発表とディスカッション
- 11回：文献の発表とディスカッション
- 12回：文献の発表とディスカッション
- 13回：文献の発表とディスカッション
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

発表に基づきディスカッションを行うので、発表者は前もって議論すべき論点を整理してこよう。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表資料の準備と発表内容:60% ディスカッションへの参加度:40%

テキスト / Textbooks

使用しない。関係資料など適宜、提供する。

参考文献 / Readings

授業内で適時紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に PC を持参すること。

家族社会学

Sociology of Family

「家族の多様化」を考える。(Considering the "Diversification of Family".)

本多 真隆 (HONDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB057

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、家族と親密な関係についての国内外の文献を講読し、ディスカッションすることで、「家族の多様化」のあり方を理解、分析するための理論の習得を目指す。

Through a review and discussion of national and international literature on families and intimate relationships, students will learn theories for understanding and analyzing the nature of the "Diversification of Family".

授業の内容 / Course Contents

近年、欧米先進諸国を中心として「家族の多様化」が注目を集めており、国内外の家族研究ではその現状を捉えるための理論研究が活性化している。またフェミニズムやクィア理論、政治哲学など他分野の知見の導入も進んでおり、現代の家族研究はこうした動向を知ることなしに理解することは難しい。

本講義では、こうした近年の国内外の家族研究の動向を学ぶ。具体的には、研究動向に関する文献や、現代家族の状況に関する質的研究の文献を講読し、ディスカッションする。

In recent years, "Diversification of Family" has attracted much attention, particularly in Europe and the United

States. Theoretical studies to grasp the current situation have flourished in domestic and international family studies. In addition, the field of contemporary family studies has begun to actively introduce knowledge from other fields, such as feminism, queer theory, and political philosophy. It is difficult to understand contemporary family studies without being aware of these trends.

In this lecture, students will learn about these recent domestic and international trends in family research, with a specific focus on reviewing and discussing the literature on research trends and qualitative research on contemporary family situations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：文献の選定と割り当て
- 2回：文献講読とディスカッション 1
- 3回：文献講読とディスカッション 2
- 4回：文献講読とディスカッション 3
- 5回：文献講読とディスカッション 4
- 6回：文献講読とディスカッション 5
- 7回：文献講読とディスカッション 6
- 8回：文献講読とディスカッション 7
- 9回：文献講読とディスカッション 8
- 10回：文献講読とディスカッション 9
- 11回：文献講読とディスカッション 10
- 12回：文献講読とディスカッション 11
- 13回：文献講読とディスカッション 12
- 14回：文献講読とディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者はレジュメを作成し、事前に共有すること。また各回の講義で取り上げる文献は、報告者以外も読んでおくことが必須である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告:50% 出席、議論の参加:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

Deborah Chambers & Pablo Gracia A Sociology of Family Life Polity 2021 9781509541355

講義中に適宜紹介する。

その他 / Others

講読文献は、受講者の関心も踏まえて初回に提示する。初回に文献の紹介と割り当てを行うので、履修希望

者は、初回の講義には必ず出席すること。

宗教社会学

Sociology of Religion

宗教社会学の入門（*なお、大学院には「[基礎科目としての] 宗教社会学 [この科目]」「宗教社会学演習」「宗教社会学研究」の3科目があるので注意すること）

小池 靖 (KOIKE YASUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB058

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代的な宗教社会学の基礎文献の輪読を通じて、宗教と社会の現在について考察する。

Through a reading of the basic literature of contemporary sociology of religion, the course will examine the present state of religion and society.

授業の内容 / Course Contents

草創期の社会学では、宗教とは、消えゆく前近代の秩序を代表するものであり、それゆえに社会学の関心の中心にあった。このクラスでは、基礎科目として、現代社会における宗教を社会学的にどうとらえるのかということ、輪読やディスカッションによって検討する。映像資料を見る回も設ける。

In pioneering sociology, religion represented a vanishing pre-modern order and was therefore central to sociological concerns. In this class, as a foundational course, we will examine how religion in contemporary society is viewed sociologically through readings and discussions. There will also be times to view video materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：学生による発表1
- 3回：学生による発表2
- 4回：学生による発表3
- 5回：映像資料1
- 6回：輪読1
- 7回：輪読2
- 8回：輪読3
- 9回：映像資料2
- 10回：輪読4
- 11回：輪読5
- 12回：輪読6
- 13回：映像資料3
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献の読み込み等。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:50% 発表以外の要素（授業への貢献、レポートなどの提出物）:50%

テキスト / Textbooks

随時指示する。

参考文献 / Readings

Adam Possamai The i-zation of Society, Religion, and Neoliberal Post-Secularism Palgrave Macmillan 2017

Adam Possamai Sociology of Religion for Generations X and Y Routledge 2009

メレディス・B・マクガイア 『宗教社会学：宗教と社会のダイナミックス』 明石書店 2008

その他 / Others

その他の諸注意：

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

政治社会学

Political Sociology

効果的利他主義と長期主義：可能性と限界

堀内 進之介 (HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB059

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 文献の内容を適切に要約し、内容に関するコメントができる力を身に付ける。
- 政治的な問題を批判的に考え、データに基づいて政策を分析し、より公正で持続可能な社会をつくる方法を考えられるようになる。

The course objectives are to enable students to:

Summarize literature contents appropriately and develop the ability to comment on the contents.

Think critically about political issues, analyze policies based on evidence, and consider ways to build a more just and sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

現代社会は、気候変動、格差、健康、テクノロジーなど、多くの課題に直面しています。この授業では、これらの課題に対して、効果的利他主義や長期主義といった考え方でアプローチすることを学びます。

効果的利他主義とは、可能な限り多くの人々の幸福を最大化することを目指す思想です。資源が限られる中で、誰の幸福を優先すべきかという判断基準を提供します。長期主義は、近視眼的な利益を超えて、将来の世

代の幸福も考慮に入れることの重要性を唱えます。

授業では、これらの考え方の起源と変遷をたどり、理論的な枠組みを学びます。そして、気候変動や AI 開発といった具体的な政策課題にこれらの原理を適用する方法を議論します。

Today's society faces many challenges, including climate change, inequality, health, and technology. In this class, students will learn to approach these challenges with ideas such as effective altruism and long-termism.

Effective altruism is a philosophy that aims to maximize the well-being of as many people as possible. It provides a criterion for determining whose well-being should be prioritized in the face of limited resources. Long-termism advocates the importance of going beyond short-sighted interests and taking into account the well-being of future generations.

The class will trace the origins and evolution of these ideas and learn about their theoretical framework. We will then discuss how to apply these principles to specific policy issues such as climate change and AI development.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：文献報告とディスカッション
- 3 回：文献報告とディスカッション
- 4 回：文献報告とディスカッション
- 5 回：文献報告とディスカッション
- 6 回：文献報告とディスカッション
- 7 回：文献報告とディスカッション
- 8 回：文献報告とディスカッション
- 9 回：文献報告とディスカッション
- 10 回：文献報告とディスカッション
- 11 回：文献報告とディスカッション
- 12 回：文献報告とディスカッション
- 13 回：文献報告とディスカッション
- 14 回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各授業の準備として、文献を注意深く読み、疑問点や論点を「書誌レジュメ」としてまとめること。

発表者は、発表のアウトラインを作成し、報告を行うための十分な準備をすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加度:20% 報告内容:30% 書誌レジュメ:50%

テキスト / Textbooks

ウィリアム・マッカスキル 見えない未来を変える「いま」 みすず書房 2024 9784622096696 ○

ピーター・シンガー あなたが世界のためにできる たったひとつのこと NHK 出版 2015 9784140816929

○

参考文献 / Readings

産業・労働社会学

Sociology of Work

李 ミン珍 (LEE MINJIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB060
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC5010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

近年の産業・労働社会学分野における諸研究で展開されている諸議論を検討し、理解する。

Students will review and understand the latest studies as well as classical ones of the industrial and labor sociology.

授業の内容 / Course Contents

産業・労働社会学において議論されている諸テーマ、すなわち雇用形態・就業形態の多様化（非典型雇用、雇用関係によらない働き方（独立請負、フリーランスやギグワークなど）、労働市場における流動性と転職、働き方における柔軟性、長時間労働とワーク・ライフ・バランス問題、仕事の自律性と裁量労働、成果主義とモチベーション、サービス労働、感情労働、仕事におけるジェンダー不平等問題、若者の労働志向、外国人労働者、非正規労働者の労働運動、社会運動ユニオニズムなどについて議論し、理解を深める。授業では、これらのテーマに関する諸文献を講読し、議論する。講読文献は、初回で参加者と相談して決める。

Studies of the industrial and labor sociology have dealt with many topics, for example, motivation to work, autonomy and control at work, internal labor market system, industrial relations, emotional labor, irregular types of employment, performance-based pay system, flexible work system, overwork problem and work-life balance,

gender inequality at work, foreign workers problem, social movement unionism and so on. Students will read and discuss studies which examines some of above-mentioned topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction：講読文献の紹介
- 2回：文献講読及びディスカッション
- 3回：文献講読及びディスカッション
- 4回：文献講読及びディスカッション
- 5回：文献講読及びディスカッション
- 6回：文献講読及びディスカッション
- 7回：文献講読及びディスカッション
- 8回：文献講読及びディスカッション
- 9回：文献講読及びディスカッション
- 10回：文献講読及びディスカッション
- 11回：文献講読及びディスカッション
- 12回：受講生の研究発表
- 13回：受講生の研究発表
- 14回：講読諸文献に関する総括ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で講読予定の文献を読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 授業内発表:50% 研究発表:20%

テキスト / Textbooks

初回で提示する。

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する。

都市社会学

Urban Sociology

西山 志保 (NISHIYAMA SHIHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB061
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC5010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学部での社会学の学びを前提として、大学院レベルでの都市社会学に関する基本的な視座・理論・方法についての知識を得ること。

The purpose of this course is to introduce key concepts of urban sociology and to examine contemporary urban issues.

授業の内容 / Course Contents

都市社会学の基本的な視座・理論・方法について、講義および基礎的文献の講読を通して学ぶとともに、ディスカッションなどを通して、都市社会学および現代都市の問題への理解を深めていく。授業の内容については受講者の数、学習レベル、希望などを踏まえて変更することがある。

The course will discuss basic concepts of urban sociology to understand urban society and urban life. Also, this course will read articles related to contemporary urban issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：講義(1) シカゴ学派の視点その 1

- 3回：講義(2) シカゴ学派の視点その2
 4回：講義(3) シカゴ学派の方法
 5回：文献講読とディスカッション(1)
 6回：文献講読とディスカッション(2)
 7回：文献講読とディスカッション(3)
 8回：講義(4) 新都市社会学の視点
 9回：講義(5) 新都市社会学以降の展開
 10回：文献講読とディスカッション(4)
 11回：文献講読とディスカッション(5)
 12回：文献講読とディスカッション(6)
 13回：講義(7) 日本の都市社会学の展開
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献のほか、必要な都市社会学およびその周辺領域の文献を積極的に講読すること。また、授業のディスカッションに積極的参加して、発言することを求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況および中間レポートの総合評価:100%

テキスト / Textbooks

初回の授業時に、受講生の状況および希望を勘案して決定する。基本的には日本語文献を選択する予定であるが、場合によっては英語文献とすることもありうる。

参考文献 / Readings

松本康編 『都市社会学・入門』改訂版 有斐閣 2022 9784641222076

環境社会学

Environmental Sociology

環境社会学

藤川 賢 (FUJIKAWA KEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB062
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC5010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

環境問題の事例研究の比較検討を通して、共通の課題や社会的背景などを考察するための洞察力を身につける。

環境社会学の理論展開や調査方法などに課する知識を身につける。

先行研究との関係などを踏まえた研究課題として、自分自身の研究計画を進める。

Through a comparative study of case studies of environmental issues, acquire the insight to consider social backgrounds.

Acquire knowledge related to the theories and research methods in environmental sociology.

Build your own research plan based on the relationship with previous research.

授業の内容 / Course Contents

このクラスでは、環境問題の社会学的研究の講読を軸にする。国内外の主要な事例・テーマを追いつつ、そこで示される概念や理論を検討していく。比較や議論を通して、時代、国・地域、関係者の行動などの条件によって異なる部分と、多くの事例に共通する構造的な特徴を考え、自分自身の研究テーマに結びつけていく。扱

う事例や文献は、参加者の関心などに応じて変更の可能性はある。

This class will focus on sociology of environmental issues. We will read some textbooks on major cases and themes from Japan and abroad, and examine the concepts and theories presented there. Through comparisons and discussions, students will consider commonalities and differences between them and link them to your own research themes. The cases and textbooks may change depending on the interests of the participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入 環境社会学の概説、参考文献の紹介
- 2 回：環境汚染と健康影響 公害の歴史と被害の拡大、潜在化
- 3 回：産業公害の展開 水俣病の拡大における地域社会と差別
- 4 回：環境汚染における自然と地域文化の意味 新潟水俣病などの事例から
- 5 回：加害・被害と解決過程 イタイイタイ病などの事例から
- 6 回：公害対策とリスク・汚染の広域移動
- 7 回：公害輸出と環境汚染のグローバル化
- 8 回：グローバル企業と途上国の環境問題 ボパール災害の歴史から
- 9 回：被害者運動の意味 反公害運動の系譜
- 10 回：被害者運動の展開と現状 食品公害と消費者運動
- 11 回：リスク評価をめぐる課題 化学物質と安全性を求める運動
- 12 回：環境正義論 リスク社会の進展と環境差別への指摘
- 13 回：環境正義の理論展開 手続き的正義と社会参加
- 14 回：復習 環境と社会の関係

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回のテーマについては、授業内で指示する文献をあらかじめ読んでおくことが求められる。報告や質疑などについては授業内で決めていく。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での報告・レポート:50% 授業参加・発言:50%

テキスト / Textbooks

藤川賢・友澤悠季編 『なぜ公害は続くのかー潜在・散在・長期化する被害』 新泉社 2023
9784787723017 -

参考文献 / Readings

関礼子・原口弥生編 『福島原発事故は人びとに何をもちたのか』 新泉社 2023 9784787723031

茅野恒秀・青木聡子編 『地域社会はエネルギーとどう向きあってきたのか』 新泉社 2023
9784787723024

清水万由子・林美帆・除本理史編 『公害の経験を未来につなぐ』 ナカニシヤ出版 2023 9784779517235

メディア社会学

Sociology of Media

井川 充雄 (IKAWA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB063
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC5010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

メディア社会学の基礎的知識を習得するとともに、その射程の広がりを理解する。

Students will acquire basic knowledge of media sociology and understand the breadth of its scope.

授業の内容 / Course Contents

メディア社会学とは、きわめて学際的な学問である。近年のメディアの大きな変容とともに、メディア社会学の扱う領域も拡大している。

本授業では、テキストの精読を通して、メディア社会学について多角的に学ぶ。このことによって、履修者は、これから行う自分の研究の基礎を築いていってほしい。

In recent years, media has developed rapidly thanks to technological progress, spreading its influence. Media sociology is a highly interdisciplinary discipline. Along with the recent major transformation of the media, the field of media sociology is also expanding.

In this class, students will learn about media sociology from various perspectives through close reading of texts. Through these, students will build the foundation of the future researches.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：『入門メディア社会学』（1）
 3回：『入門メディア社会学』（2）
 4回：『入門メディア社会学』（3）
 5回：『入門メディア社会学』（4）
 6回：『入門メディア社会学』（5）
 7回：『入門メディア社会学』（6）
 8回：『入門メディア社会学』（7）
 9回：『入門メディア社会学』（8）
 10回：『入門メディア社会学』（9）
 11回：『入門メディア社会学』（10）
 12回：『入門メディア社会学』（11）
 13回：『入門メディア社会学』（12）
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は、指定したテキストはもちろん、授業時間外に関連する文献を読むことによって、より多角的に理解を深めることが必要である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の発表:60% 授業内の討論:40%

テキスト / Textbooks

井川充雄・木村忠正編 『入門メディア社会学』 ミネルヴァ書房 2022 9784623094271 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業では、毎回レポーターを決め、テキストの内容を深く理解するとともに、参加者の議論によって、発展的検討を行う。

文化人類学

Cultural Anthropology

文化人類学理論史研究

木村 自 (KIMURA MIZUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB064

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

1860年代から2000年代までに至る文化人類学の理論史を概観し、人類学理論のパラダイム転換の裏にある思想・視点を明らかにする。

To clarify and understand the overview of the theoretical history of cultural anthropology from the 1860s to the 2000s.

授業の内容 / Course Contents

19世紀後半にヨーロッパ・アメリカで生まれた人類学は、他者を理解することをめぐって数々のパラダイム転換を遂げた。そのパラダイム転換の歴史的軌跡は、進歩史観と博物学的研究を中心とした1860/70年代から1920/30年代までの第1期、フィールドワークに基づきコミュニティ内部の有機的統合を模索した1920/30年代から1970/80年代までの第2期、民族誌記述の政治性を批判し、文化的統合性よりも流動性と生成を焦点化した1980/90年代の第3期、さらに民族誌批判を乗り越えて新たな人類学的視点を提示しようとする1990年代以降の第4期に大きく分けることができる。本講義では、この4期の歴史展開における思想的背景をあぶりだし、今日の文化人類学の歴史的な位置づけを明らかにする。（授業計画は、授業の進捗に応じて変更すること

があります)

Born in Europe and the United States in the late 19th century, anthropology has undergone several paradigm-shifts. In this lecture, the historical trajectory of the paradigm-shifts divided into four periods; the first period from the 1860s / 70s to the 1920s / 30s, the heyday of the evolutionism and the natural history, the second period from the 1920s / 30s to the 1970s / 80s, which sought the organic integration based on community fieldworks. the se1920 / which sought organic integration within the community based on fieldwork. The third period of the 1980s / 90s, which criticized the politics of ethnographic writing and focused on fluidity and generation rather than cultural integrity. The fourth period since the 1990s, trying to overcome criticism of writing culture shock and present a new anthropological perspective. In this lecture, we will discuss the ideological background of the historical development of these four periods. In addition, it also explores the historical location of cultural anthropology today. (The plan will be changed depending on the course progression.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション——講義の構造
- 2 回：一卵性双生児としての社会学と人類学——「文明」と「未開」への問
- 3 回：文化的多様性と近代性を結びつける——人類学における進化
- 4 回：人類学における「機能」という考え方（1）——共同体研究
- 5 回：人類学における「機能」という考え方（2）——「科学」としての人類学
- 6 回：人類学における「構造」概念（1）——主体の消滅
- 7 回：人類学における「構造」概念（2）——構造から実践へ
- 8 回：人類学における「文化」の焦点化——アメリカ人類学と文化の解釈
- 9 回：人類学における政治と詩——ライティングカルチャーショック
- 10 回：「私」の民族誌——実験的民族誌
- 11 回：「世界」のなかの民族誌——世界システムと多現場民族誌
- 12 回：再び「近代」へ（ただし未完の）——アクターネットワークとハイブリッド
- 13 回：「存在論的転換」をとりあえず理解する
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で指示する参考文献に目を通すこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:100%

テキスト / Textbooks

とくになし。

参考文献 / Readings

竹沢尚一郎 『人類学的思考の歴史』 世界思想社 2007 9784790712695

太田好信・浜本満 『メイキング文化人類学』 世界思想社 2005 4790711021

ティム・インゴルド 『人類学とは何か』 亜紀書房 2020 9784750515953

松村 圭一郎他 『文化人類学の思考法』 世界思想社 2019 9784790717331

前川啓治他 『21世紀の文化人類学』 新曜社 2018 9784788515826

その他の参考文献については、各回の授業において指示する。

カルチュラルスタディーズ

Cultural Studies

文化に対する批判的研究と、実践のために

小泉 元宏 (KOIZUMI MOTOHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB065

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化研究（カルチュラルスタディーズ）に関する理論的研究と文化実践を、大学院レベルでおこなっていくための基礎的視座を得ること。

This course provides an opportunity to study basic theories and have practical experiences of Cultural Studies at postgraduate level.

授業の内容 / Course Contents

近現代における諸文化と、社会的諸主体・権力との関係性などに関する文化批評理論などの理論研究を行うとともに、随時、フィールドワークやグループワークなどを行う。また、各自の問題意識やテーマに基づいた研究発表およびディスカッションなども実施する。

This course consists of:

- reading bibliographical materials of critical theories and cultural sociology
- analysing texts and discussions
- field research, practical projects

- research presentations

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、研究紹介
- 2回：フィールドワーク準備
- 3回：文献講読・ディスカッション
- 4回：文献講読・ディスカッション
- 5回：文献講読・ディスカッション
- 6回：フィールドワーク／プロジェクト
- 7回：文献講読・ディスカッション
- 8回：文献講読・ディスカッション
- 9回：文献講読・ディスカッション
- 10回：フィールドワーク／プロジェクト
- 11回：研究発表、グループメンタリング
- 12回：研究発表、グループメンタリング
- 13回：研究発表、グループメンタリング
- 14回：グループ・プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、ならびにグループプレゼンテーションや研究発表では、事前の発表準備等が必須となる。また授業中に取り扱う理論や実践活動にかんして、自ら調査をおこなうことで、授業内容への理解を深めるとともに、自身の研究課題との関連性を見出していくことが期待される。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加（文献講読・グループワーク・研究発表・ディスカッションへの参加ほか）：100%

テキスト / Textbooks

履修者の関心に合わせ、指定する。なお英語文献が含まれることもある。

参考文献 / Readings

都度、紹介する。

科学技術社会論

Science and Technology Studies

綾部 広則 (AYABE HIRONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB066
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC5010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

科学技術と社会を考えるための基本的知識を身につける。

The purpose of this course is to acquire basic knowledge for a better understanding of the relationship between science, technology and society.

授業の内容 / Course Contents

科学技術と社会に関する講義と基本文献の講読を行う。受講者数にもよるが、最初の数回程度は、科学技術社会論の概略を講義し、その上で、残りを基本文献の輪読にあてる予定（文献についてはオリエンテーションの折に相談して決める）。なお、科学技術と銘打っているが、自然科学・工学に関する予備知識は必要としないので、安心して受講してください。

Students will attend lectures and read basic literatures on science, technology and society (STS). Depending on number of students, professor will lecture of STS in the first a few classes. Students will spend remaining time reading basic literatures (professor will decide literature reading list with students during orientation). Although the course deals with science and technology, students can attend even without prior knowledge in natural science and engineering.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：科学技術社会論とは何か（1）
 3回：科学技術社会論とは何か（2）
 4回：科学技術社会論とは何か（3）
 5回：科学技術社会論とは何か（4）
 6回：科学技術社会論とは何か（5）
 7回：文献講読（1）
 8回：文献講読（2）
 9回：文献講読（3）
 10回：文献講読（4）
 11回：文献講読（5）
 12回：文献講読（6）
 13回：文献講読（7）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

その回で扱う文献については、事前に熟読しレジュメを作成すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ディスカッションへの貢献度:50% 割り当てられた文献に関する報告:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

塚原東吾他編著 『よくわかる現代科学技術史・S T S』 ミネルヴァ書房 2022 9784623092154

調査計画法

Research Design

量的調査と質的調査による混合アプローチの可能性

大崎 裕子 (OSAKI HIROKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	MB071
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC5010
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

社会調査を実施する際の基本的な事項を理解し、実査に活用できるようにする。

The purpose of this class is to provide students with an understanding of the basics of social research so that they can apply them in actual research.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の基本的な考え方及び各種調査手法の特徴を学んだうえで、リサーチクエスションの立て方や仮説の構築、調査の企画・設計、データの収集・整理・分析、調査結果の報告に至る方法を取得する。あわせて調査倫理についても学ぶ。既存の理論や先行研究を考慮した上で適切な調査を企画・実施できるようになることを目標とする。さらに、量的調査と質的調査を統合した研究計画について学ぶ。

After learning the basic concepts of social research and the characteristics of various research methods, students will acquire methods for setting research questions, constructing hypotheses, planning and designing surveys, collecting, organizing, and analyzing data, and reporting survey results. Students will also learn about research

ethics. The goal is for students to be able to plan and conduct appropriate surveys, taking into account existing theories and previous research. In addition, students will learn how to design a research plan that integrates quantitative and qualitative research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：社会調査の種類
- 3回：社会学における理論と検証
- 4回：社会調査の倫理と今日的課題
- 5回：量的調査と質的調査の混合アプローチ
- 6回：調査計画(1)：問題関心と先行研究レビュー
- 7回：調査計画(2)：リサーチクエスションと仮説構築
- 8回：調査票調査(1)：調査票の設計とワーディング
- 9回：調査票調査(2)：調査対象とサンプリング
- 10回：調査票調査(3)：データの収集とコーディング・クリーニング
- 11回：調査票調査(4)：データ分析と結果の解釈
- 12回：ヒアリング調査(1)：調査項目の整理、対象者の選定と関係形成
- 13回：ヒアリング調査(2)：データ収集と分析結果の整理
- 14回：まとめ：調査票調査とヒアリング調査の統合的検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 量的・質的調査を問わず、自身の研究関心に関連する先行研究を多数読んでおくこと。
- ・ 授業全体をとおして、自身の研究計画にかんする実習課題が出される。授業時間内で完結しない分は、授業時間外に作業を行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内提出物:40% 講義への参加度:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

轟亮・杉野勇・平沢和司編 『入門・社会調査法〔第4版〕：2ステップで基礎から学ぶ』 法律文化社
2021 9784589041418 ○

参考文献 / Readings

- 森岡清志編 『ガイドブック社会調査第2版』 日本評論社 2007 9784535582460
 佐藤郁哉 『社会調査の考え方 上』 東京大学出版会 2015 9784130520263
 佐藤郁哉 『社会調査の考え方 下』 東京大学出版会 2015 9784130520270
 松本渉 『社会調査の方法論』 丸善出版 2021 9784621306314
 盛山和夫 『社会調査法入門』 有斐閣 2004 9784641183056
 参考文献は授業時に提示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

インターネットにつながるノート PC を用意してください。

その他/ Others

学部レベルの社会調査法や社会統計学の知識（クロス集計や平均値の比較、分析結果のグラフ作成など）がある事を前提とする。それらについては、各自が自主的に習得しておくこと。

量的分析法

Statistical Analysis

中級多変量解析

三輪 哲 (MIWA SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB073

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

計量社会学での応用で活用される、中級レベルの多変量解析技法を学ぶ。

To Learn intermediate-level multivariate analysis techniques used in quantitative sociology.

授業の内容 / Course Contents

社会統計学や多変量解析の基礎を学んでいる事を前提に、それらの手法、とりわけ中級レベルのモデルについて、学術論文を理解することや、適用して自身の論文を執筆するための知識・技能を身に付ける事を目的とする。社会的な立場に基づいて、データの収集やハンドリングから、解析そして解釈までを学ぶ。統計ソフトウェア SPSS を使用した実習もおこなう。

Assuming that graduate students have learned the basics of social statistics and multivariate analysis, you will need the knowledge and knowledge to understand academic papers and apply those methods, especially intermediate-level models, to write your own papers. The purpose is to acquire skills. Learn everything from data collection and handling to analysis and interpretation based on a sociological standpoint. Students will also practice using the statistical software SPSS.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：量的分析の応用のために
- 2回：記述統計とハンドリング
- 3回：カテゴリカル変数の関連
- 4回：量的変数の関連
- 5回：重回帰分析の基礎
- 6回：重回帰分析の応用
- 7回：二値カテゴリカル従属変数の解析
- 8回：多値カテゴリカル従属変数の解析
- 9回：連続時間の生存分析
- 10回：離散時間の生存分析
- 11回：マルチレベル分析
- 12回：パネルデータに対するマルチレベル分析の適用
- 13回：傾向スコア法
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト該当箇所の予習と、前回内容に基づく課題による復習をすることが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 提出課題:30% 授業内小テスト:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

三輪哲・林雄亮 『SPSSによる応用多変量解析』 オーム社 2014 4274050114 ○

参考文献 / Readings

康永秀生ほか 『できる! 傾向スコア分析: SPSS・Stata・R を用いた必勝マニュアル』 金原出版 2017
4307004841

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中にソフトウェア SPSS を使用するので、各自何らかの形で準備すること。

質的分析法

Qualitative Research

小林 多寿子 (KOBAYASHI TAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB075
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC5010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

質的調査研究の系譜をたどり、社会学における質的調査を概観的に把握したうえで、質的調査の方法や分析について具体的な事例をとおして学び、質的調査研究の基礎力と実践力を身につけることをめざす。

Students will trace qualitative researches to understand overall qualitative sociology. To acquire basic and practical qualitative research skills, students will learn its methods and analyses through specific case studies.

授業の内容 / Course Contents

社会調査法における質的研究に焦点を合わせ、質的研究の系譜をたどり、近年の質的研究成果を概観しながら、質的研究の事例をとおして多様な質的方法の実際について学ぶ。フィールドワークから質的データの収集、分析、解釈、論文の作成に至るまでの社会調査の全過程を、さまざまな文献をもとに検討・討議する。昨今は、社会調査において調査倫理が不可欠となっているので、調査協力者と調査者の関係や当事者研究などの可能性についても検討する。ライフストーリー調査の方法論を基礎に、フィールドワークの方法、インタビュー法、ナラティブ論、エスノグラフィの書き方などが検討、考察の焦点となる。

Students will focus on society sociological research, trace qualitative researches, and study recent qualitative research findings. They will learn various qualitative methods through these cases. Based on various literatures,

students will discuss social research processes, including collecting, analyzing, interpreting, and writing papers on field works' qualitative data. Recently research ethic has become essential in social research, so students will also discuss possibilities of researching party involved and relationships between researcher and research collaborators. Based on life story research methods, students will focus on discussing and analyzing various methods, including field work, interview, narrative theory, and ethnography writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：授業の進め方
- 2 回：質的データとは何か：個人記録、文書資料、新聞雑誌記事、音声、映像など
- 3 回：質的調査の系譜：社会学における質的調査への道
- 4 回：質的調査法の種類：ドキュメント分析、ライフヒストリー/ライフストーリー法、参与観察など
- 5 回：質的調査の技法：フィールドワークの方法
- 6 回：質的調査の技法：多様なインタビュー法—相互行為としてのインタビュー
- 7 回：質的調査の技法：「人生」へのアプローチ—ライフヒストリー/ライフストーリーの考え方
- 8 回：質的調査の技法：アーカイヴ調査とアーカイヴ資料の可能性
- 9 回：質的データの分析・解釈：フィールドノートとトランスクリプト
- 10 回：質的データの分析・解釈：語りの社会的・文化的文脈
- 11 回：質的データの分析・解釈：「分厚い記述」と生活世界へのまなざし
- 12 回：調査実践と調査倫理の諸問題
- 13 回：受講生による調査計画と調査方法：リサーチデザインと成果の呈示
- 14 回：全体のふりかえりと質的調査の課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基礎的な関連文献を読むこと、各自の研究テーマを深めること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 授業内報告:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

小林多寿子編 『ライフストーリー・ガイドブック』 嵯峨野書院 2010 9784782305096 ○

参考文献 / Readings

プロジェクト研究 A 1

Research Project A1

国際的な人の移動と交流

(Global Migration and Transnational Relations)

太田 麻希子／野呂 芳明／中山 由佳 (OTA MAKIKO/ MIZUKAMI TETSUO/ NORO YOSHIAKI/
NAKAYAMA YUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB081

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5040

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

グローバルな人の移動が進展する中で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。また、一定期間の外国滞在後に帰国したケースも含めたネットワーク形成のあり方も対象とする。調査の計画や実施、分析、報告書作成などのスキルの向上。実際に調査の計画を立て、経験することで、調査を実施するまでに必要な事項や、分析に至るまでを学ぶ。専門論文の作成にあたって、調査の方法論などを経験的に学ぶことができる。

This project, entitled “Global Migration and Transnational Networks,” is focused upon Japan- Philippines, Japan-Bangladesh relations, and supported from the “Asian People’s Friendship Society”, the so-called APFS (non-profit organizations). This is a pioneering type of graduate program integrating research by professional sociologists and graduate students’ training in sociology. We will examine the international migration trends relating to Japanese society, and characteristics of contemporary ethnic communities. Additionally, we also

undertake some research into the impact on the host society as well as on the migrants' country of origin. Thus the research covers the network formation, that is the case of returning to homeland after staying foreign lands for a certain period of time. Our stance is from empirical research, gathering data from actual society. Students are expected to improve their skills in survey planning and quantitative and qualitative data analyses for completing research reports.

授業の内容 / Course Contents

本プロジェクト授業は、日本の大都市で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。とくに国内のエスニック・コミュニティと帰還者とのトランスナショナルな絆、移住者を送出した国（ベトナム、フィリピン、バングラデシュなど）の変化、日本と海外の都市をつなぐような活動をしている組織等、例えば外国人居住者支援にかかわる NGO を通じて、聞き取り調査や国内でのフィールドワークを実施する。条件が整えば、海外フィールドワークも計画する。日本における多様なタイプの定住形態の類型化や、日本からの帰還者がいかに日本とかかわるか等、実証データの収集を試みる。

Contemporary metropolises have become embedded with various types of migrants, and current debate of “transnational migrants” emphasizes that migrants live in the interconnections with more than one nation state, or continuously keep their links with homelands, while living in the foreign host community. Our focus of the research is Japan-Philippines, Japan-Bangladesh relations, gathering data by conducting intensive interviews with migrants as well as returnees from Japan. Each student studies Sociological theories and methods from the topic of global migration and resultant settlement patterns.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：文献講読 I: 対象となる地域やエスニック社会にかんする文献を講読
- 3 回：文献講読 II
- 4 回：文献講読 III
- 5 回：文献講読 IV: インタビュー等の方法論を学ぶ
- 6 回：文献講読 V
- 7 回：中間発表 I
- 8 回：中間発表 II
- 9 回：調査企画 I: 先行研究のまとめとそれぞれの調査計画を設定する
- 10 回：調査企画 II
- 11 回：調査企画 III
- 12 回：調査企画 IV
- 13 回：中間報告 I
- 14 回：中間報告 II

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献報告の準備、フィールドワークで収集したデータの整理・分析、これらに基づいたレポートの執筆などが

求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時間内の討論への貢献度:30% 授業での報告:35% 最終レポート割合 :35%

テキスト / Textbooks

吉成勝男・水上徹男・野呂芳明 『市民が提案するこれからの移民政策—NPO 法人 APFS の活動と世界の動向から』 現代人文社 2015 -

吉成勝男・水上徹男 『移民政策と多文化コミュニティへの道のり—APFS の外国人住民支援活動の軌跡—』 現代人文社 2018 -

International Organization for Migration (IOM) Country Migration Report: The Philippines IOM 2013 -

International Organization for Migration (IOM) The International Organization for Migration in Brife IOM 2014 -

OECD International Migration Outlook 2020 OECD 2018 -

適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

参考文献 / Readings

Smillie, Ian Freedom from Want Kumarian Press 2009

Vertovec, Steven Transnationalism (Key Ideas) Routledge 2009

Vinken, Henk, et al. (eds.) Civic Engagement in Contemporary Japan Springer 2010

適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

調査の方法論や調査倫理および社会学の基礎理論について、予め学習していることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Google Drive を使用する。

プロジェクト研究A2

Research Project A2

国際的な人の移動と交流

(Global Migration and Transnational Relations)

太田 麻希子／水上 徹男／野呂 芳明／中山 由佳 (OTA MAKIKO/ MIZUKAMI TETSUO/ NORO YOSHIAKI/ NAKAYAMA YUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB082

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5040

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

グローバルな人の移動が進展する中で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。また、一定期間の外国滞在後に帰国したケースも含めたネットワーク形成のあり方も対象とする。調査の計画や実施、分析、報告書作成などのスキルの向上。実際に調査の計画を立て、経験することで、調査を実施するまでに必要な事項や、分析に至るまでを学ぶ。専門論文の作成にあたって、調査の方法論などを経験的に学ぶことができる。

This project, entitled “Global Migration and Transnational Networks,” is focused upon Japan-Philippines, Japan-Bangladesh relations, and supported from the “Asian People’s Friendship Society”, the so-called APFS (non-profit organizations). This is a pioneering type of graduate program integrating research by professional sociologists and graduate students’ training in sociology. We will examine the international migration trends relating to Japanese society, and characteristics of contemporary ethnic communities. Additionally, we also

undertake some research into the impact on the host society as well as on the migrants' country of origin. Thus the research covers the network formation, that is the case of returning to homeland after staying foreign lands for a certain period of time. Our stance is from empirical research, gathering data from actual society. Students are expected to improve their skills in survey planning and quantitative and qualitative data analyses for completing research reports.

授業の内容 / Course Contents

本プロジェクト授業は、日本の大都市で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。とくに国内のエスニック・コミュニティと帰還者とのトランスナショナルな絆、移住者を送出した国（ベトナム、フィリピン、バングラデシュなど）の変化、日本と海外の都市をつなぐような活動をしている組織等、例えば外国人居住者支援にかかわる NGO を通じて、聞き取り調査や国内でのフィールドワークを実施する。条件が整えば、海外フィールドワークも計画する。日本における多様なタイプの定住形態の類型化や、日本からの帰還者がいかに日本とかかわるか等、実証データの収集を行う。

Contemporary metropolises have become embedded with various types of migrants, and current debate of “transnational migrants” emphasizes that migrants live in the interconnections with more than one nation state, or continuously keep their links with homelands, while living in the foreign host community. Our focus of the research is Japan-Philippines, Japan-Bangladesh relations, gathering data by conducting intensive interviews with migrants as well as returnees from Japan. Each student studies Sociological theories and methods from the topic of global migration and resultant settlement patterns.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス： 秋学期の進め方およびフィールドワークのスケジュールなど
- 2 回：インタビューおよび質問票調査の検討 I
- 3 回：インタビューおよび質問票調査の検討 I I
- 4 回：実地調査（国内） I： フィールドワークおよびインタビュー、質問票調査を実施
- 5 回：実地調査（国内） I I
- 6 回：実地調査（海外） I： フィールドワークおよびインタビュー、質問票調査を実施
- 7 回：実地調査（海外） I I
- 8 回：データ検証 I
- 9 回：データ検証 I I
- 10 回：データ検証 I I I
- 11 回：中間報告 I
- 12 回：中間報告 II
- 13 回：報告書作成 I
- 14 回：報告書作成 I I

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド*（パワポ*等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献報告の準備、フィールドワークで収集したデータの整理・分析、これらに基づいたレポートの執筆などが

求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告や調査活動:65%

最終レポート割合 :35%

テキスト / Textbooks

プロジェクト研究 A 1 参照。

適宜指示する。

参考文献 / Readings

プロジェクト研究 A1 参照。

適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

調査の方法論や調査倫理および社会学の基礎理論について、予め学習していることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Google Drive を使用する。

その他 / Others

プロジェクト研究 A 1 を履修していること。

プロジェクト研究B 1

Research Project B1

「デジタル社会学」のリサーチデザイン

木村 忠正／川畑 泰子／和田 伸一郎／榎 剛史 (KIMURA TADAMASA/ KAWAHATA YASUKO/
WADA SHINICHIRO/ SAKAKI TAKESHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB083
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 対面とオンラインを組み合わせるハイブリッド式を必要に応じて導入する
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC5040
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

いわゆるソーシャルメディアの日常生活への浸透、社会全体の情報ネットワークに伴うビッグ・データの拡大などを背景として、「デジタル社会学」と呼ばれる分野が興隆しつつある。本プロジェクト研究では、社会調査に利用可能なデータが量および質において多様に展開している状況において、「デジタル社会学」としての調査研究をどのようにデザインするのかについて、具体的な分析方法とともに探索的に考察することを目的とする。

With the deep penetration of social media into daily life and the expansive generation of big data with the information network absorbing our contemporary society at large, the field called "digital sociology" is emerging. This project research seminar requires students to explore the way we could design research strategies with a wide variety of analytical methods as "digital sociology," in a situation where the data available for social research are diversifying both in quantitative data and qualitative one.

授業の内容 / Course Contents

ソーシャルメディア・ログデータをもとに、大規模でかつ豊富な特徴を備えたデータの分析方法について学ぶ。理論的な側面と分析例と方法論の学習を中心とする。

Students will learn how to analyze large-scale, feature-rich data dealing with actual social media log data. The spring semester mainly focuses on theoretical aspects of digital sociology and fosters your acquisition of foundational methods and strategies of big data analysis using actual log data set.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読 (1) デジタル社会学について
- 3回：文献講読 (2) ハイブリッド・メソッドについて
- 4回：文献講読 (3) ビッグデータ、ビジネスインテリジェンスについて
- 5回：ビッグデータ解析方法論 (1) ソーシャルメディア・ビッグデータ
- 6回：ビッグデータ解析方法論 (2) Python などのプログラミング言語
- 7回：ビッグデータ解析方法論 (3) テキスト・データの分析
- 8回：ビッグデータ解析実践 (1)
- 9回：ビッグデータ解析実践 (2)
- 10回：ビッグデータ解析実践 (3)
- 11回：分析報告とディスカッション (1)
- 12回：分析報告とディスカッション (2)
- 13回：分析報告とディスカッション (3)
- 14回：春学期総括と秋学期作業に向けての検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

本プロジェクトでは、ビッグデータ解析をはじめ、一方で、統計的手法、情報工学的手法を積極的に用いるとともに、テキストデータに関しては質的調査の方法論もとり入れる。履修者には、社会調査の方法論、主として、プログラミング言語 Python のコーディングを含むデータ分析法 (自然言語処理) について深く学習するとともに、リサーチを自らデザインし実施する積極性が求められる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業期間内の作業:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト/ Textbooks

- 木村忠正 『ハイブリッド・エスノグラフィー』 新曜社 2018 4788515830 -
- 鳥海不二夫編著 『計算社会科学入門』 丸善出版 2021 4621305964 -
- 榎剛史編著 『Python ではじめるテキストアナリティクス入門』 講談社 2022 4065274109 -
- 授業内で指示する。

参考文献 / Readings

Deborah Lupton Digital Sociology Routledge 2014 1138022772

Jessie Daniels et al Digital Sociologies Policy Press 2016 9781447329015

そのほかは授業内で指示する。

プロジェクト研究B2

Research Project B2

「デジタル社会学」のリサーチデザイン

木村 忠正／川畑 泰子／榎 剛史 (KIMURA TADAMASA/ KAWAHATA YASUKO/ WADA SHINICHIRO/ SAKAKI TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	MB084
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	対面とオンラインを組み合わせるハイブリッド式を必要に応じて導入する
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC5040
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

いわゆるソーシャルメディアの日常生活への浸透、社会全体の情報ネットワークに伴うビッグ・データの拡大などを背景として、「デジタル社会学」と呼ばれる分野が興隆しつつある。本プロジェクト研究では、社会調査に利用可能なデータが量および質において多様に展開している状況において、「デジタル社会学」としての調査研究をどのようにデザインするのかについて、具体的な分析方法とともに探索的に考察することを目的とする。

With the deep penetration of social media into daily life and the expansive generation of big data with the information network absorbing our contemporary society at large, the field called "digital sociology" is emerging. This project research seminar requires students to explore the way we could design research strategies with a wide variety of analytical methods as "digital sociology," in a situation where the data available for social research are diversifying both in quantitative data and qualitative one.

授業の内容 / Course Contents

ソーシャルメディアログデータ、スマホログデータをもとに、大規模でかつ豊富な特徴を備えたデータの分析方法について学ぶ。秋学期はリサーチデザインについて文献により学習した上で、具体的な調査研究課題を設定し、ソーシャルメディアログデータを取得し、分析、レポートにまとめるという、一連の調査プロセスに根ざした実習を行う。

Students will learn how to analyze large-scale and feature-rich data dealing with actual large social media log data and/or smartphone log data, In the fall semester, while you learn methodology of analysis of big data and the way to develop research design, students are required to formulate research questions, surveying literature, conducting research with adjusting your research strategies, collecting data, developing analysis, drawing conclusions and summarizing the results so as to finish writing up an essay.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読 (1) リサーチデザインについて
- 3回：文献講読 (2) データ収集・分析アプローチの選択
- 4回：文献講読 (3) データ・マネジメント、調査倫理について
- 5回：リサーチ・デザイン (1) 問題設定・仮説構成
- 6回：リサーチ・デザイン (2) データ収集・分析アプローチ
- 7回：リサーチ・デザイン (3) 計画報告とディスカッション
- 8回：データ解析実践 (1)
- 9回：データ解析実践 (2)
- 10回：データ解析実践 (3)
- 11回：分析報告とディスカッション (1)
- 12回：分析報告とディスカッション (2)
- 13回：分析報告とディスカッション (3)
- 14回：全体総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

本プロジェクトでは、ビッグデータ解析をはじめ、一方で、統計的手法、情報工学的手法を積極的に用いるとともに、テキストデータに関しては質的調査の方法論もとり入れる。履修者には、社会調査の方法論、ソフトウェアの操作を含むデータ分析法について深く学習するとともに、リサーチを自らデザインし実施する積極性が求められる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業期間内の作業:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

授業内で指示する。

参考文献 / Readings

木村忠正 『ハイブリッド・エスノグラフィー』 新曜社 2018 4788515830

鳥海不二夫他 『計算社会科学入門』 丸善出版 2021 4621305964

北川源四郎他 『教養としてのデータサイエンス』 講談社 2021 4065238099

そのほかは授業内で指示する。

プロジェクト研究D1

Research Project D1

東アジアのメディア、ジャーナリズム、ポピュラーカルチャー研究

黄 盛彬/林 怡シェン (HWANG SEONGBIN/ LIN I-HSUAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB087

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5040

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

東アジア地域におけるメディアおよびジャーナリズムのシステムや文化について、グローバル比較の視点から理解する。調査研究を遂行するためのリサーチスキル、文献調査、メディアやエンタテインメント産業、そしてジャーナリズムに関わるデータ分析、アンケート、フィールドワーク、聞き取り調査などの研究手法を学ぶ。

This course aims to understand the systems and cultures of media/journalism industries in East Asia from a global comparative perspective. Students will learn research skills, literature review, and data analysis related to the media, journalism, and culture industry. The research methods include questionnaires, fieldwork, interviews, and other research skills to carry out the research project.

授業の内容 / Course Contents

東アジアにおけるメディアおよびジャーナリズムのシステムや文化の比較を主題とする。比較対象地域は、台湾、韓国、日本、そして香港、シンガポールなどを視野に入れて、受講生の構成や希望などを考慮して定める。

調査方法としては、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査、フィールドワーク、聞き取り調査などを用いる。文献輪読を通して理論的な分析視点を学び、先行研究のレビューを行いつつ、受講生は、自ら研究調査計画の設計、データ収集に取り組む。春学期中は、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査を中心に行い、夏から秋学期中にかけて適切な時期にフィールド調査を行う。

This course will compare media, journalism, and popular culture in East Asia from the perspectives of media and journalism studies. Considering the students' research interests, the target regions for comparison will be Taiwan, South Korea, Japan, Hong Kong, and Singapore.

Research methods include media system analysis, qualitative media analysis, questionnaire surveys, fieldwork, and interviews. Students will learn theoretical analysis perspectives through reading literature and reviewing previous research, while each will design their research plan and collect data. We will focus on media system analysis, qualitative media analysis, and questionnaire surveys in the spring semester and conduct field surveys in the target areas in the fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献輪読
- 3回：文献輪読
- 4回：文献輪読
- 5回：各国・地域におけるメディア・ジャーナリズムの現状分析
- 6回：各国・地域におけるメディア・ジャーナリズムの現状分析
- 7回：各国・地域におけるメディア・ジャーナリズムの現状分析
- 8回：データ収集・分析の実践
- 9回：データ収集・分析の実践
- 10回：データ収集・分析の実践
- 11回：分析報告とディスカッション
- 12回：分析報告とディスカッション
- 13回：分析報告とディスカッション
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業計画は、調査計画及び実施の過程で、予定などが前後することがある。

講読以外に、調査・発表における作業上のやりとりで英語を使用する機会があるので、アカデミック・ライティングなども含めて学習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表及び討論:30% 研究プレゼンテーション:30% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

参考文献 / Readings

NHK 放送文化研究所 『NHK データブック 世界の放送 2021』 NHK 出版 2021

Hallin, C. Daniel and Paolo Mancini Comparing Media Systems: Three Models of Media and Politics
Cambridge University Press 2000 0521543088

Hallin, C. Daniel and Paolo Mancini Comparing Media Systems Beyond the Western World Cambridge
University Press 2012 1107699541

Hanitzsch, Thomas, Folker Hanusch, Jyotika Ramaprasad Worlds of Journalism: Journalistic Cultures Around
the Globe Columbia Univ Pr 2019 0231186428

林怡夔 『台湾のエスニシティとメディア—統合の受容と拒絶のポリティクス』 立教大学出版会 2014
4901988255

Carlson, Matt and Seth C. Lewis Boundaries of Journalism: Professionalism, Practices and Participation
Routledge 2015 1138017841

ジェンキンス, H. 『コンヴァージェンス・カルチャー: ファンとメディアがつくる参加型文化』 晶文社
2021 4794972482

授業内で提示する。

プロジェクト研究D2

Research Project D2

東アジアのメディア・ジャーナリズム研究

黄 盛彬/林 怡シェン (HWANG SEONGBIN/ LIN I-HSUAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB088

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC5040

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

東アジア地域におけるメディアおよびジャーナリズムのシステムや文化について、グローバル比較の視点から理解する。調査研究を遂行するためのリサーチスキル、文献調査、メディアやエンタテインメント産業、そしてジャーナリズムに関わるデータ分析、アンケート、フィールドワーク、聞き取り調査などの研究手法を学ぶ。

This course aims to understand the systems and cultures of media/journalism industries in East Asia from a global comparative perspective. Students will learn research skills, literature review, and data analysis related to the media, journalism, and culture industry. The research methods include questionnaires, fieldwork, interviews, and other research skills to carry out the research project.

授業の内容 / Course Contents

東アジアにおけるメディアおよびジャーナリズムのシステムや文化の比較を主題とする。比較対象地域は、台湾、韓国、日本、そして香港、シンガポールなどを視野に入れて、受講生の構成や希望などを考慮して定める。

調査方法としては、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査、フィールドワーク、聞き取り調査などを用いる。文献輪読を通して理論的な分析視点を学び、先行研究のレビューを行いつつ、受講生は、自ら研究調査計画の設計、データ収集に取り組む。春学期中は、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査を中心に行い、夏から秋学期中にかけて適切な時期にフィールド調査を行う。

This course will compare media, journalism, and popular culture in East Asia from the perspectives of media and journalism studies. Considering the students' research interests, the target regions for comparison will be Taiwan, South Korea, Japan, Hong Kong, and Singapore.

Research methods include media system analysis, qualitative media analysis, questionnaire surveys, fieldwork, and interviews. Students will learn theoretical analysis perspectives through reading literature and reviewing previous research, while each will design their research plan and collect data. We will focus on media system analysis, qualitative media analysis, and questionnaire surveys in the spring semester and conduct field surveys in the target areas in the fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：フィールド調査計画の検討
- 2回：フィールド調査計画の検討
- 3回：関連研究1・先行調査1
- 4回：関連研究2・先行調査2
- 5回：調査準備1
- 6回：調査準備2
- 7回：調査実施1
- 8回：調査実施2
- 9回：調査実施3
- 10回：データ検証1
- 11回：データ検証2
- 12回：プレゼンテーション1
- 13回：プレゼンテーション2
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業計画は、調査計画及び実施の過程で、予定などが前後することがある。

講読以外に、調査・発表における作業上のやりとりで英語を使用する機会があるので、アカデミック・ライティングなども含めて学習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表及び討論:30% 研究プレゼンテーション:30%
合 :40%

最終レポート割

テキスト/Textbooks

授業内で提示する。

参考文献 / Readings

NHK 放送文化研究所 『NHK データブック 世界の放送 2021』 NHK 出版 2021

Hallin, C. Daniel and Paolo Mancini Comparing Media Systems: Three Models of Media and Politics
Cambridge University Press 2000 0521543088

Hallin, Daniel C. and Paolo Mancini Comparing Media Systems Beyond the Western World Cambridge
University Press 20 1107699541

Hanitzsch, Thomas, Folker Hanusch, Jyotika Ramaprasad Worlds of Journalism: Journalistic Cultures Around
the Globe Columbia Univ Pr 2019 0231186428

Carlson, Matt and Seth C. Lewis Boundaries of Journalism: Professionalism, Practices and Participation
Routledge 2015 1138017841

ジェンキンス、H. 『コンヴァージェンス・カルチャー: ファンとメディアがつくる参加型文化』 晶文社
2021 9784794972484

授業内で提示する。

リサーチ英語演習 A

Research English A

モライス, L. (MORAIS LILIANA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB431
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC6021
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- Acquire the basic tools for graduate research.
- Write and present a research proposal in English.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to help students acquire the necessary tools to undertake graduate-level research in English. Students will be guided through several steps to write and present a clear, logical, and structured research proposal.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Syllabus overview and Introductions
- 2 回：What is a research proposal?
- 3 回：Finding relevant papers and writing bibliographical references
- 4 回：Reading strategies, note-taking, quotations, and plagiarism
- 5 回：Annotated bibliography versus literature review
- 6 回：Research questions and methods

- 7回：Structure of a research proposal I
 8回：Structure of a research proposal II
 9回：Structure of a research proposal III
 10回：Structure of a research proposal IV
 11回：Peer-review and discussion I
 12回：Peer-review and discussion II
 13回：Peer-review and discussion III
 14回：Final presentations and submission of research proposal

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read chapters of the textbook, read papers relevant to their research topics, plan for in-class assignments and discussions, prepare an oral presentation, and write a research proposal.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Research proposal:30% Peer-review and discussion:20% Oral presentation:15%

Homework and in-class assignments:25% Attendance and Participation:10%

テキスト / Textbooks

WANG, Gabe T.; PARK, Keumjae Student research and report writing :from topic selection to the complete paper Wiley-Blackwell 2016 -

参考文献 / Readings

リサーチ英語演習B

Research English B

モライス, L. (MORAIS LILIANA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB432
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC6021
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

1. Read and discuss academic papers in English.
2. Consider different research methods and designs.
3. Discuss the progress of your research.
3. Write and present a report of your research.

授業の内容 / Course Contents

Students will engage in reading and discussing academic papers focused on various topics, research methods, and designs, discuss the progress of their research, and write a research report in English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Syllabus overview and introductions
- 2 回：Reading and Discussion I
- 3 回：Reading and Discussion II
- 4 回：Reading and Discussion III
- 5 回：Reading and Discussion IV

- 6回：Reading and Discussion V
 7回：Reading and Discussion VI
 8回：Reading and Discussion VII
 9回：Reading and Discussion VIII
 10回：Writing Activity
 11回：Peer-review and discussion of research report I
 12回：Peer-review and discussion of research report II
 13回：Peer-review and discussion of research report III
 14回：Final presentations of research report

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read papers on various research topics, methods, and designs, plan for in-class assignments and discussions, prepare an oral presentation, and write a research report.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Peer Review and Discussion:20% Oral Presentation:15% Homework and in-class assignments:25% Attendance and Participation:10% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

WANG, Gabe T.; PARK, Keumjae Student research and report writing: from topic selection to the complete paper Wiley-Blackwell 2016 -

参考文献 / Readings

KOTTMANN, Nora; REIHER, Cornelia Studying Japan: Handbook of Research Designs, Fieldwork and Methods Nomos 2020

O'REILLEY, Karen Ethnographic Methods Routledge 2005

学術論文の技法

Academic Writing

日本語学術論文の書き方——形式と作法

岡田 陽介 (OKADA YOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	MB461
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC5010
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

日本語学術論文の形式や作法について学び、適切な形式・表現を用いて履修者自身で論文を執筆できるようになることを目指す。

Students will learn structures and methods of Japanese academic papers. Students will learn to write theses with appropriate forms and expressions.

授業の内容 / Course Contents

日本語学術論文の形式や作法について学ぶ。各回では基本的な事項の解説の後、履修者自身が用意した文章や小論文を教材として履修者同士で添削を行う。履修者の相互添削を通して、日本語学術論文の形式や作法の理解を深め、履修者自身が適切な形式の学術論文の技法を身につける。

Students will learn structures and methods of Japanese academic papers. Each time, after professor explains basic matters, students edit their own passages or short essays with each other. Through this collaborated editing, students will deepen their understanding about structures and methods of Japanese academic papers. Students will acquire appropriate forms and academic paper techniques.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：授業の狙いと各回の説明・授業を行う上での注意事項の説明
- 2回：日本語学術論文の形式（1）：論文の構成（問いと仮説）
- 3回：日本語学術論文の形式（2）：論文の構成（問いと仮説）
- 4回：日本語学術論文の形式（3）：先行研究の整理の仕方1
- 5回：日本語学術論文の形式（4）：先行研究の整理の仕方2
- 6回：日本語学術論文の作法（1）：記述上の約束事／注
- 7回：日本語学術論文の作法（2）：引用・文献リスト
- 8回：日本語学術論文の作法（3）：図表の注意事項
- 9回：日本語学術論文の作法（4）：校正
- 10回：小論文の相互添削（1）
- 11回：小論文の相互添削（2）
- 12回：小論文の相互添削（3）
- 13回：小論文の相互添削（4）
- 14回：小論文の相互添削（5）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の主たる教材は授業時間外に各自が執筆した文章や小論文となる。従って、各回で指示する授業時間外の課題に取り組むことが必須となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回課題の提出状況:30% 授業への貢献度:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

日本社会学会『社会学評論 スタイルガイド』(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業時にノート PC を持参することが望ましい。

現代社会理論演習

Seminar: Contemporary Social Theory

現代社会学理論を読む

片上 平二郎 (KATAKAMI HEIJIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB702

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

講読によって現代社会学理論の潮流を知る。

This course purposes is to learn about the current trends in contemporary sociological theory by reading texts.

授業の内容 / Course Contents

この授業は現代社会学理論から社会をとらえる方法を知るために、理論的文献を読んでいく授業である。今期は「現代社会論」の思考枠組をとらえるために、「暴力」や「権力」、「アイデンティティ」、「文化」の関連について学んでいきたい。

発表は、文章化したレジユメを用意してもらうかたちとなる。

The course is composed of readings and discussions. Students learn the current trends in contemporary sociological theory through the reading of sociological texts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：文献講読

3回：文献講読
 4回：文献講読
 5回：文献講読
 6回：文献講読
 7回：文献講読
 8回：文献講読
 9回：文献講読
 10回：文献講読
 11回：文献講読
 12回：文献講読
 13回：文献講読
 14回：文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講読の授業であるため、予習として、参加者全員がテキストの該当部を毎回事前に読んでいることを前提として授業を行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と討論:100%

テキスト / Textbooks

ノルベルト・エリアス 『文明化の過程』 法政大学出版局 2010 4588099264 -
 アクセル・ホネット 『見えないこと：相互主体性理論の諸段階について』 法政大学出版局 2015
 4588010255 -
 ヴァルター・ベンミヤン 『ベンヤミン・コレクション』 筑摩書房 1995 4480082166 -
 上述の書籍を参考として初回の授業で扱うテキストを決定する。

参考文献 / Readings

奥村隆 『エリアス 暴力への問い』 勁草書房 2001 4326652535
 藤野寛 『承認の哲学』 青土社 2016 4791769376
 細見和之 『フランクフルト学派』 中央公論新社 2014 4121022882
 酒井隆史 『暴力の哲学』 河出書房新社 2016 4309414311
 今村仁司 『暴力のオントロジー』 勁草書房 1982

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

大学院で「理論社会学」の書籍を読み、ディスカッションでいくための前提となる基本的な知識と能力を要求する。

計量社会学研究

Quantitative Sociology

計量社会学の基礎と応用

三輪 哲 (MIWA SATOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	MB703
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC6010
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

計量社会学では、多様なモデルが用いられている。この授業では、それらモデルのうち、いくつかのものに焦点をあて、方法論的基礎と応用例を学ぶことを目標とする。

2024 年度は、「回帰分析の拡張的モデル」を特にとりあげる。

A variety of models are used in quantitative sociology. In this class, we will focus on some of these models and aim to learn the methodological foundations and application examples.

In 2024, we will particularly focus on the extended models of regression analysis.

授業の内容 / Course Contents

まず、計量社会学の全体像と、今年扱う内容にかかわる内容についての基本的事項を講義する。

その後、テキスト講読をおこなって、モデルの方法的基礎を理解する。なお今年は、特に、打ち切りデータの回帰分析（トービットなど）、標本選択モデル（ヘキットなど）、空間回帰モデルをとりあげる。

受講生は、それらモデルを用いた実証研究論文を探し、報告をする。

時には、これらモデルのソフトウェアによる実践について、演習をおこなうこともある。

First, I will give a lecture on the overall picture of quantitative sociology and basic matters related to the content that will be covered this year.

Afterwards, students will read the text to understand the methodological basis of the model. This year, we will particularly focus on regression analysis of censored data (such as Tobit), sample selection models (such as Heckit), and spatial regression models.

Students will search for empirical research papers using these models and report on them.

At times, we also conduct exercises on implementing these models using software.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：計量社会学の役割と回帰モデルの基本
- 3 回：『打ち切り・標本選択・切断データの回帰モデル』第1章
- 4 回：『打ち切り・標本選択・切断データの回帰モデル』第2章
- 5 回：『打ち切り・標本選択・切断データの回帰モデル』第3章
- 6 回：『打ち切り・標本選択・切断データの回帰モデル』第4章
- 7 回：『打ち切り・標本選択・切断データの回帰モデル』第5章
- 8 回：『空間回帰モデル』第1、2章
- 9 回：『空間回帰モデル』第3章
- 10 回：『空間回帰モデル』第4章
- 11 回：『空間回帰モデル』第5章
- 12 回：『空間回帰モデル』第6章
- 13 回：実証論文に基づく報告（1）
- 14 回：実証論文に基づく報告（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト該当箇所の子習と、復習を兼ねて関連文献の渉猟が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の報告:50% 取り組みの積極性:50%

テキスト / Textbooks

R.Breen（水落正明訳）『打ち切り・標本選択・切断データの回帰モデル』 共立出版 2022 4320114132

-

M.D.Ward & K.S.Gleditsch（田中章司郎・西井籠映訳）『空間回帰モデル』 共立出版 2023 4320114159

-

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

春学期開講「量的分析法」を既習またはそれと同等の知識水準を有することが求められる。

相互行為論演習

Seminar: Social Interaction

スポーツとメディア／コミュニケーション

是永 論 (KORENAGA RON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB706

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

スポーツとメディアおよびコミュニケーションの関係について考察することを目的とする。

This course aims to study the relationship of sports and media/communication.

授業の内容 / Course Contents

スポーツとメディアおよびコミュニケーションの関係について考察することを目的に、社会学における身体・メディア・技術へのアプローチを概観するとともに、相互行為論とエスノメソドロジーにおけるワーク研究の観点から検討する。また、データに志向した研究の方法について検討するために、履修者自身が企画するデータセッションを行う。

This course aims to study the relationship of sports and media/communication. Students will consider the perspectives of social interaction and ethnomethodological study of work in addition to sociological approaches to bodies, media and technologies. Students will also have to conduct data-sessions by themselves to consider data-oriented methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：スポーツとメディア1（メディアイベント）
 3回：スポーツとメディア2（スポーツ報道と実況）
 4回：スポーツとメディア3（スポーツ指導とメディア）
 5回：スポーツとファン文化1（メディア・イベント）
 6回：スポーツとファン文化2（応援の文化）
 7回：スポーツとファン文化3（競技設備と環境）
 8回：相互行為の分析1（会話分析）
 9回：相互行為の分析2（ワーク研究）
 10回：データセッション1
 11回：データセッション2
 12回：データセッション3
 13回：データセッション4
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者には、データ・ベース利用やビデオ分析の手法について、ソフトウェアを用いた実習への参加を義務付ける。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 提出物の評価:40% ゼミにおける発表及び活動状況の評価:60%

テキスト / Textbooks

授業にて適宜指示する（論文・書籍の一部をオンラインで共有の予定）。

参考文献 / Readings

- 山崎敬一ほか編 『エスノメソドロロジー・会話分析ハンドブック』 新曜社 2023 9784788517943
 橋本純一編 『スポーツ観戦学』 世界思想社 2010 9784790714545
 E.ゴッフマン 『出会い——相互行為の社会学』 誠信書房 1985 9784414518023
 小宮友根ほか編 『実践の論理を描く』 勁草書房 2023 9784326603572
 Lynch,M and Lindwall,O. eds. Instructed and Instructive Actions Routledge 2024 9781032230719
 授業にて指示する。

その他 / Others

研究室 HP <http://www.rikkyo.ne.jp/web/ronkore/>

ライフストーリー研究

Research: Life Story Studies

ライフストーリー研究の基礎

石川 良子 (ISHIKAWA RYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB709

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶことを目的とする。

The aims to help students learn about the basic ideas and perspectives of life story research.

授業の内容 / Course Contents

他者のライフを理解するとはどういうことか。そもそも「ライフ」とは何か。関連文献を批判的に読み解き、ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶ。また、受講者自身の調査研究についても報告してもらう。

What it means to understand life of others? What is "life" in the first place? Students will critically read literatures related to life story research, and learn about the basic ideas and perspectives of life story research. Furthermore, students will report on their own field research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：お互いを知り合う

- 3回：お互いを知り合う
 4回：お互いを知り合う
 5回：調査研究報告・文献報告
 6回：調査研究報告・文献報告
 7回：調査研究報告・文献報告
 8回：調査研究報告・文献報告
 9回：調査研究報告・文献報告
 10回：調査研究報告・文献報告
 11回：調査研究報告・文献報告
 12回：調査研究報告・文献報告
 13回：調査研究報告・文献報告
 14回：調査研究報告・文献報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に適宜指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への貢献:50% 報告内容:50%

テキスト / Textbooks

講読文献は受講者と相談して決めます。

参考文献 / Readings

ライフストーリー演習

Seminar: Life Story Studies

ライフストーリー研究の基礎

石川 良子 (ISHIKAWA RYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB710

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶことを目的とする。

The aims to help students learn about the basic ideas and perspectives of life story research.

授業の内容 / Course Contents

他者のライフを理解するとはどういうことか。そもそも「ライフ」とは何か。関連文献を批判的に読み解き、ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶ。また、受講者自身の調査研究についても報告してもらう。

What it means to understand life of others? What is "life" in the first place? Students will critically read literatures related to life story research, and learn about the basic ideas and perspectives of life story research. Furthermore, students will report on their own field research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：お互いを知り合う

- 3回：お互いを知り合う
 4回：お互いを知り合う
 5回：調査研究報告・文献報告
 6回：調査研究報告・文献報告
 7回：調査研究報告・文献報告
 8回：調査研究報告・文献報告
 9回：調査研究報告・文献報告
 10回：調査研究報告・文献報告
 11回：調査研究報告・文献報告
 12回：調査研究報告・文献報告
 13回：調査研究報告・文献報告
 14回：調査研究報告・文献報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に適宜指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への貢献:50% 報告内容の内容:50%

テキスト / Textbooks

講読文献は受講者と相談して決めます。

参考文献 / Readings

エスノメソドロジー研究

Ethnomethodology

黒嶋 智美 (KUROSHIMA SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB711

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

エスノメソドロジー研究の基本的な着想や展開を学ぶ。会話分析研究の主要な分析概念について文献を元に学び、各自のデータでその概念装置を用いた分析を演習として行なう。会話分析のデータの見方に習熟することを目標とする。

- To learn the basic ideas and the development of ethnomethodological research.
- To learn the main analytical concepts of conversation analysis research based on the literature, and analyze one's data using the analytic tools as exercises.
- To master how to look at data from conversation analytic perspectives.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、社会学のなかから登場した「エスノメソドロジー」とよばれる研究方針の基本的な着想やその展開を、主に会話分析の主要文献を通して考察しながら、実践的に学んでいく。併せて、各自のデータで分析的概念を用いて現象を特定していく訓練を集中的に行なう。毎回、文献講読またはデータ分析の課題を課す。

In this course, you will learn the basic ideas and development of the research policy called "ethnomethodology," which emerged from sociology by examining the major literature on conversation analysis. At the same time,

students will be intensively trained to identify phenomena using analytical concepts in their data. Each class will have a reading assignment and/or data analysis assignment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：エスノメソドロジーとはなにか：その基本的な着想
- 2回：会話における順番交代：発話順番構成単位
- 3回：会話における順番交代：発話順番割当規則
- 4回：行為連鎖組織
- 5回：優先組織
- 6回：データセッション
- 7回：修復組織（1）
- 8回：修復組織（2）
- 9回：定式化実践（1）
- 10回：定式化実践（2）
- 11回：データセッション
- 12回：実践における「見ること」（1）
- 13回：実践における「見ること」（2）
- 14回：まとめ、受講生の個別発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキストまたは文献講読の該当箇所を熟読してくることを。

その他の授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% データ分析:30% 授業参加度:30% 最終レポート割合：:40%

2/3以上の出席をしていない場合は 単位修得不可。

テキスト / Textbooks

前田泰樹／水川善文／岡田光弘編 『エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』 新曜社 2007
9784788510623 ○

参考文献 / Readings

デイヴィッド・フランシス／スティーヴン・ヘスター 『エスノメソドロジーへの招待：言語・社会・相互行為』 ナカニシヤ出版 2014 9784779508295

串田秀也／平本毅／林誠 『会話分析入門』 勁草書房 2017 9784326602964

秋谷直矩／團康晃／松井広志編 『楽しみの技法：趣味実践の社会学』 ナカニシヤ出版 2021
9784779515828

水川喜文／秋谷直矩／五十嵐素子 『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』
ハーベスト社 2017 9784863390836

マイケル・リンチ 『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』 勁草書房 2012 9784326602445

酒井泰斗／浦野茂／前田泰樹／中村和生 『概念分析の社会学：社会的経験と人間の科学』 ナカニシヤ出版
2009 9784779503146

筒井淳也／前田泰樹 『社会学入門：社会とのかかわり方』 有斐閣 2017 9784641150461

是永論 『見ること・聞くことのデザイン：メディア理解の相互行為分析』 新曜社、2017年（ISBN：
9784788515093）

吉川侑輝 『音楽の方法誌：練習場面のエスノメソドロジー』 晃洋書房、近刊。

エスノメソドロジー演習

Seminar: Ethnomethodology

エスノメソドロジーの基本的な考え方・分析の態度

黒嶋 智美 (KUROSHIMA SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB712

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

エスノメソドロジーの基本的な考え方および分析の態度を習得することを目的とする。

The purpose of this class is to further develop analytical skills in ethnomethodology.

授業の内容 / Course Contents

社会学は、対象となる私たち社会成員の側が、何らかのことば（=概念）を用いて、自らの経験や行為を理解しているという事実と向き合ってきた。実際に私たちは、日常生活から始まって病いの経験やケアの実践などにいたるまで、何らかの方法（論）を用いて自らの経験や行為を理解し、さまざまな社会生活を営んでいる。授業では、私たちが社会生活を営むさいに実際に用いている方法（論）を捉えようとするエスノメソドロジー研究の現在の潮流（ワークの研究や会話分析など）について検討する。また、参加者が各自で取り組んでいる具体的な事例分析を発表し、受講者全員で検討を行う機会を設ける予定である。

We will explore contemporary directions of the ethnomethodological studies, including studies of work and conversation analysis. Each participant will present at least once during the semester their own analytic work in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献の報告・事例の検討
- 3回：文献の報告・事例の検討
- 4回：文献の報告・事例の検討
- 5回：文献の報告・事例の検討
- 6回：文献の報告・事例の検討
- 7回：文献の報告・事例の検討
- 8回：文献の報告・事例の検討
- 9回：文献の報告・事例の検討
- 10回：文献の報告・事例の検討
- 11回：文献の報告・事例の検討
- 12回：文献の報告・事例の検討
- 13回：文献の報告・事例の検討
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加の積極性:50% 報告・発表内容:50%

テキスト / Textbooks

授業時に指示する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

家族社会学演習

Seminar: Sociology of Family

グローバル化社会における「公」と「私」の再編を考える。(Considering the restructuring of "Public" and "Private" in a globalized society.)

本多 真隆 (HONDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB714

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、親密圏および公共圏についての国内外の文献を講読し、ディスカッションすることで、グローバル化にともなう「公」と「私」の再編を捉えるための理論的枠組みの習得を目指す。

In this course, students will read and discuss domestic and international literature on the intimate spheres and public spheres, with the aim of acquiring a theoretical framework for understanding the reorganization of "public" and "private" in the context of globalization.

授業の内容 / Course Contents

近年は、家族社会学のみならずさまざまな社会科学の領域において、「公」と「私」の再編をあつかう研究が活性化している。これらの試みは、グローバル化にともなう社会変動によって従来の「公」と「私」の区分が機能不全になるなかで、新たな枠組みからその現状を捉えなおそうとするものであるといえる。そのテーマは、家族、ジェンダー、福祉、ケア、労働など多岐にわたっている。

本講義では、こうした「公」と「私」の再編に関する国内外の研究動向を学ぶ。研究動向に関する文献の講

読だけでなく、受講者に各自の研究テーマへの応用を報告してもらう場合もある。

In recent years, research on the reorganization of "public" and "private" has flourished, not only in the field of family studies but also in various other fields within the social sciences. These attempts have sought to redefine the current situation from a new framework as the traditional distinction between "public" and "private" becomes more dysfunctional due to social changes brought about by globalization. The themes of these studies are diverse, including family, gender, welfare, care, and labor.

In this lecture, students will learn about domestic and international research trends related to the reorganization of "public" and "private. In addition to reading the literature on research trends, students may be asked to report on its application to their own research topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション・文献の選定と割り当て

2回：文献講読とディスカッション 1

3回：文献講読とディスカッション 2

4回：文献講読とディスカッション 3

5回：文献講読とディスカッション 4

6回：文献講読とディスカッション 5

7回：文献講読とディスカッション 6

8回：文献講読とディスカッション 7

9回：文献講読とディスカッション 8

10回：文献講読とディスカッション 9

11回：文献講読とディスカッション 10

12回：文献講読とディスカッション 11

13回：文献講読とディスカッション 12

14回：文献講読とディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者はレジュメを作成し、事前に共有すること。また各回の講義で取り上げる文献は、報告者以外も読んでおくことが必須である。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当回の報告:50% 出席、議論の参加:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

Raelene Wilding Families, Intimacy and Globalization Red Globe Press 2017 9781137338587

講義中に適宜紹介する。

その他/ Others

講読文献は、受講者の関心も踏まえて初回に提示する。初回に文献の紹介と割り当てを行うので、履修希望者は、初回の講義には必ず出席すること。

宗教社会学演習

Seminar: Sociology of Religion

現代社会論の探求（*なお、大学院には「[基礎科目としての] 宗教社会学」「宗教社会学演習 [この科目]」「宗教社会学研究」の3科目があるので注意すること）

小池 靖 (KOIKE YASUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB716

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

狭義の宗教にとどまらず、現代の精神状況を幅広く社会学的に考察する。カウンセリング、セラピー、趣味世界の話題も取り扱う。

The course is not limited to religion in the narrow sense of the word, but also examines a wide range of contemporary spiritual situations from a sociological perspective. Topics include counseling, therapy, and the world of hobbies.

授業の内容 / Course Contents

学部レベルを超えた文献・論文を輪読することを通じて、多様な社会学の議論に触れる。受講者の個人発表もおこなう。映像資料を見て議論する回も設ける。

例年は、各学生の興味関心にも基づき、毎週1本の学術論文を取り上げている。

Students will be exposed to a variety of sociological debates through reading of literature and articles beyond the undergraduate level. Individual presentations will be given. There will be times when students will watch and

discuss video materials.

In past years, one academic article is selected each week based on the interests of each student.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究報告1
- 3回：研究報告2
- 4回：研究報告3
- 5回：映像資料
- 6回：輪読発表1
- 7回：輪読発表2
- 8回：輪読発表3
- 9回：映像資料
- 10回：輪読発表4
- 11回：輪読発表5
- 12回：輪読発表6
- 13回：映像資料
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備は充分におこなうこと。参照文献を中心に、先行研究を読み込んでゆくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:50% 発表以外の要素（授業への貢献、レポートなどの提出物）:50%

テキスト / Textbooks

随時指示する。

参考文献 / Readings

随時指示する。

その他 / Others

諸注意

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

産業・労働社会学演習

Seminar: Sociology of Work and Employment

英語圏ジャーナルの労働研究理解

李 ミン珍 (LEE MINJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB720

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

英語圏ジャーナルに掲載されている、新経済・ギグ経済における仕事、高インボルブメント・ワークシステム、多様な雇用形態、ワーク・ライフ・バランス、女性労働、移住・移民労働者、新しい労働運動などに関する諸論文を読み、最新の議論を検討・理解する。

Students will review and understand the latest studies on topics such as types of work in the new (or gig) economy, high-involvement work systems, flexible forms of employment, a work-life balance, women's work, migrant or immigrant workers and new labor movements which are discussed in English journals.

授業の内容 / Course Contents

新経済・ギグ経済における仕事、高インボルブメント・ワークシステム、多様な雇用形態、ワーク・ライフ・バランス、女性労働、移住・移民労働者、新しい労働運動などに関する英語圏ジャーナルの諸論文を講読し、最新の議論や論点を検討する。以下のジャーナルから最近の論文を選定し、講読する。

American Journal of Sociology,

American Sociological Review,

British Journal of Industrial Relation,
Capital and Class,
Economic and Industrial Democracy,
Labor Studies Journal,
Work, Employment and Society など。

授業では、英語圏ジャーナルにおける最新の議論の理解のみならず、日本の経済・経営システム、労働・雇用状況に照らし合わせ、その議論の適用可能性や意味合いについても議論していきたい。

Students will review and understand the latest studies on topics such as types of work in the new (or gig) economy, high-involvement work systems, flexible forms of employment, a work-life balance, women's work, migrant or immigrant workers and new labor movements which are discussed in English journals. Students will read the latest articles from the following journals.

American Journal of Sociology,
American Sociological Review,
British Journal of Industrial Relation,
Capital and Class,
Economic and Industrial Democracy,
Labor Studies Journal,
Work, Employment and Society, etc.

In this class, students are able to understand the latest arguments discussed in English-speaking countries and areas and also to consider implications of these arguments for Japanese economy, society, and workers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction:講読諸論文の紹介
- 2回：論文講読及びディスカッション
- 3回：論文講読及びディスカッション
- 4回：論文講読及びディスカッション
- 5回：論文講読及びディスカッション
- 6回：論文講読及びディスカッション
- 7回：論文講読及びディスカッション
- 8回：論文講読及びディスカッション
- 9回：論文講読及びディスカッション
- 10回：論文講読及びディスカッション
- 11回：論文講読及びディスカッション
- 12回：受講生の研究発表及びディスカッション
- 13回：受講生の研究発表及びディスカッション
- 14回：講読諸論文に関する総括ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で講読予定の英語論文を授業前までに読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内報告:50% 研究発表:20% ディスカッションへの参加:30%

テキスト / Textbooks

初回の授業にて提示する。

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する。

都市と空間の社会学

Sociology of City and Space

高木 恒一 (TAKAGI KOICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	MB723
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC6010
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

講義、文献講読、ディスカッションを通して都市の社会-空間構造を捉える視点を学ぶ。

The goal is to learn perspectives on the socio-spatial structure of cities through lectures, literature subscriptions, and discussions.

授業の内容 / Course Contents

都市の社会-空間構造の視点を講義するとともに、文献講読とディスカッションにより理解を深める。特にハウジングスタディーズに着目し、その可能性を検討していくこととする。ハウジングスタディーズは住宅を対象とする学際的な研究領域である。住宅建設や住宅開発への投資は都市の社会-空間構造形成の重要な要素であり、近年注目が集まっているので、ここに着目していく。

なお、講読する文献については受講生と相談のうえ決定するが、現時点では以下を候補とする。

Burgess, E., 1925, "The Growth of the City: An Introduction to a Research Project" in Park, R. E. and Ernest W. Burgess (eds.), The City: Suggestions for Investigation of Human Behavior in the Urban Environment, University of Chicago Press. (=2011、松本康訳「都市の成長—研究プロジェクト序説」松本康編『都市社会学セレクション I 近代アーバニズム』日本評論社：21-38).

Clark, W.A.V., 2021, Advanced Introduction to Housing Studies, Edward Elgar.

Firey, W., 1945, "Sentiment and Symbolism as Ecological Variables", American Sociological Review 10: 140-148.

(=松本康訳、2012、「生態学的変数としての感情とシンボリズム」森岡清志編『都市社会学セレクションII 都市空間と都市コミュニティ』日本評論社：39-58) .

Harris, C.D. and E. L. Ullman, 1945, "The Nature of Cities", Annals of American Academy of Political & Science, 242(1): 7-17. (=2012、原田謙訳「都市の性質」森岡清志編『都市社会学セレクションII 都市空間と都市コミュニティ』日本評論社：19-37)

Lowe, S., 2011, The Housing Debate, Polity Press. (祐成保志訳、2017、『イギリスはいかにして持家社会となったかー住宅政策の社会学』ミネルヴァ書房).

など

The course will include a lecture on the perspectives of urban socio-spatial structure, as well as understanding through literature subscription and discussion. Among them, special attention will be paid to housing studies and its potential for the study of housing. Housing studies is an interdisciplinary research area that focuses on housing. We will focus here because investment in housing construction and housing development is an important element in shaping the socio-spatial structure of cities and has been attracting a lot of attention in recent years.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：講義(1)：都市の社会-空間構造を捉える基本的視点
- 3 回：講義(2)ハウジング・スタディーズ入門
- 4 回：ディスカッション：都市の社会-空間構造について：講義を踏まえての議論と講読文献の選定
- 5 回：文献講読(1)
- 6 回：文献講読(2)
- 7 回：文献講読(3)
- 8 回：文献講読(4)
- 9 回：文献講読(5)
- 10 回：文献講読(6)
- 11 回：文献講読(7)
- 12 回：文献講読(8)
- 13 回：文献講読(9)
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連文献を数多く読むこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み状況:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

受講生と相談のうえ決定

参考文献 / Readings

随時紹介する

都市と空間の社会学演習

Seminar: Sociology of City and Space

高木 恒一 (TAKAGI KOICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	MB724
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

文献講読とディスカッションを通じて、都市の社会-空間構造についての理解を深める

Understand the socio-spatial structure of the city through literature subscription and discussion.

授業の内容 / Course Contents

都市の社会-空間構造に関わる文献を講読・検討する。文献の選定にあたっては受講生の関心や研究テーマに即して決定することとする。合わせて、受講生の研究成果の発表する回も設定する。

Students will subscribe to and review literature related to the socio-spatial structure of cities. The selection of literature will be based on the students' interests and research themes. In addition, there will be a time for students to present their research results.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：文献講読とディスカッション
- 3 回：文献講読とディスカッション
- 4 回：文献講読とディスカッション

- 5回：文献講読とディスカッション
 6回：文献講読とディスカッション
 7回：文献講読とディスカッション
 8回：文献講読とディスカッション
 9回：受講生の研究報告
 10回：受講生の研究報告
 11回：受講生の研究報告
 12回：受講生の研究報告
 13回：受講生の研究報告
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献の事前購読、発表準備などをきちんと行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み状況:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

受講生と相談のうえ決定

参考文献 / Readings

随時提示する

地域社会学演習

Seminar: Urban and Regional Studies

地域再生とまちづくり

西山 志保 (NISHIYAMA SHIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB726

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

創造都市論、コミュニティ再生、まちづくりや市民活動に関する最新の都市理論を検証しつつ、都市再生戦略について、欧米との比較を行いながら分析をする。

Students will study the latest city theories including creative city, community revitalization, city building, and citizen activity. Students will compare Japan with Europe and US when analyzing strategies to revitalize cities.

授業の内容 / Course Contents

急速にグローバル化する現代社会において、世界都市論、創造都市論、縮小都市論など、都市の生き残り戦略を取り上げる。各国の政府や自治体がどのような都市政策をとっているのか、またそこに政府セクター、市場セクター、市民セクターなど、どのような主体が参加し問題解決を図っているのか、現状を分析する。さらに各自の研究課題と研究計画に基づき、オリジナルの研究報告を行い、討論をする。

Students will study survival strategies for cities in rapidly globalized modern society, including theories of global city, creative city, and shrinking city. What city policies do governments and local agencies adopt? Which organizations participate in government, market, and civilian sectors? How do they plan to solve these issues?

Students will analyze current state of these topics. Based on their research subjects and plans, students will report and discuss their original researches.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読（1）
- 3回：文献講読（2）
- 4回：文献講読（3）
- 5回：文献講読（4）
- 6回：文献講読（5）
- 7回：文献講読（6）
- 8回：中間討論
- 9回：文献講読（7）
- 10回：文献講読（8）
- 11回：各自報告
- 12回：各自報告
- 13回：各自報告
- 14回：全体討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% ゼミ報告、発言、積極的関与:40%

テキスト / Textbooks

演習内で適宜指示。

参考文献 / Readings

国際社会学演習

Seminar: Sociology of Transnational Social Spaces

「越境」を問い直す

石井 香世子 (ISHII KAYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB732

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、グローバル化とマルチカルチュラルリズムに関連した代表的な理論（移民と多文化共生、観光とローカル文化、家族の多文化化、難民問題の背景など）にはどのようなものがあるかを知ingことを目標としています。

Specifically, the course aims to achieve: Students will understand typical theories on globalization and multicultural coexistence (immigration, multicultural coexistence, tourism, local culture, the transition to multicultural family, the context of the refugee issue, etc.),

授業の内容 / Course Contents

グローバル化は時間と空間の圧縮を通じて、もともと多様だった地球上各地に暮らす人々を一挙に「隣人」に位置づけたかに見えます。しかしそれは同時に、新たな問題を我々に突きつけることになりました。そのグローバル化の構造について、この授業では、境界域とエスニシティの側面から学んでいきます。

Globalization compresses time and space, connecting diverse people living across the globe and making them

neighbours. However, we are facing new problems at the same time. In this class, students will learn about globalization structure from perspective of border and ethnicity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読＋グループ・ディスカッション 1
- 3回：文献講読＋グループ・ディスカッション 2
- 4回：文献講読＋グループ・ディスカッション 3
- 5回：文献講読＋グループ・ディスカッション 4
- 6回：文献講読＋グループ・ディスカッション 5
- 7回：文献講読＋グループ・ディスカッション 6
- 8回：文献講読＋グループ・ディスカッション 7
- 9回：文献講読＋グループ・ディスカッション 8
- 10回：文献講読＋グループ・ディスカッション 9
- 11回：文献講読＋グループ・ディスカッション 10
- 12回：文献講読＋グループ・ディスカッション 11
- 13回：文献講読＋グループ・ディスカッション 12
- 14回：文献講読＋グループ・ディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・毎回の授業の前に、その回で扱う部分の教科書の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。
- ・履修者の希望等に応じて、履修者の論文進捗状況の報告や、外部者による講演を実施することもある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% プレゼンテーション:40% 議論への参加:40% その他提出物等:20%

テキスト / Textbooks

適宜、授業の中で指示する。

参考文献 / Readings

清水睦美ほか 編 『日本社会の移民第二世代：エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』 明石書店 2021 9784750352282

錦田愛子 編 『政治主体としての移民/難民——人の移動が織り成す社会とシティズンシップ』 明石書店 2020 9784750349978

安達智史 『再帰的近代のアイデンティティ論—ポスト9・11時代におけるイギリスの移民第二世代ムスリム』 晃洋書房 2020 9784771033320

その他、履修者の主題に合わせて適宜授業のなかで提示する。

メディア史演習

Seminar: Media History

帝国主義とラジオの発展

井川 充雄 (IKAWA MITSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB738

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、メディア史研究の基本的な研究方法と課題を修得することを目標とする。履修者は、独自の問題意識を持ち、またそれにふさわしい実証的な研究方法を体得して欲しい。

The goal of this class is to master the basic methods and topics of media history research. We hope that students will have their own unique awareness of issues and acquire empirical research methods that are appropriate for them.

授業の内容 / Course Contents

ラジオが実用化される段階に入ったのは 1920 年代であるが、この時期は西欧列強諸国が世界各地に広大な植民地を獲得していった時期と重なっている。したがって、先進諸国は、ラジオを国民国家の統合と植民地支配に用いた。特に第二次世界大戦期には、各国がラジオを用いた対外プロパガンダと、国内の思想統制を行った。そこで、本演習では、文献講読を通じて太平洋戦争期における日本のラジオの発展をたどる。

Radio entered the stage of practical use in the 1920s, and this period coincided with the period when Western European powers were acquiring vast colonies around the world. Therefore, developed countries used radio for

the consolidation of nation-states and colonial rule. Particularly during World War II, each country used radio to carry out foreign propaganda and to control domestic ideology. In this class, we will trace the development of Japanese radio during the Pacific War through reading literature.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読 (1)
- 3回：文献講読 (2)
- 4回：文献講読 (3)
- 5回：文献講読 (4)
- 6回：文献講読 (5)
- 7回：文献講読 (6)
- 8回：文献講読 (7)
- 9回：文献講読 (8)
- 10回：文献講読 (9)
- 11回：文献講読 (10)
- 12回：文献講読 (11)
- 13回：文献講読 (12)
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は、指定したテキストはもちろん、授業時間外に関連する文献を読むことによって、より多角的に理解を深めることが必要である。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の発表:60% 授業内の討論:40%

テキスト / Textbooks

- 大森淳郎 『ラジオと戦争: 放送人たちの「報国」』 NHK出版 2023 9784140819401 ○
- 井川充雄 『帝国をつなぐ〈声〉: 日本植民地時代の台湾ラジオ』 ミネルヴァ書房 2022 9784623092796 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

参考文献は、授業内で指示する。

その他 / Others

授業では、毎回レポーターを決め、テキストの内容を深く理解するとともに、参加者の議論によって、発展的検討を行う。

ジャーナリズムスタディーズ研究

Journalism Studies

欧米ジャーナリズム史

橋本 晃 (HASHIMOTO AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB739

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

諸理念、文法、記事のスタイル（文体）など、近現代ジャーナリズムはその多くをイギリス、アメリカがつくり上げてきた。本授業はとりわけ、アメリカにおけるジャーナリズムの発展史を通じて、ジャーナリズムについて理解を深める。

Much of journalism, such as ideas, grammar and style, has been created in the United States and the United Kingdom. This course deepens the understanding of journalism through the historical development of journalism in the United States.

授業の内容 / Course Contents

マイケル・エメリーらによる包括的なアメリカジャーナリズムの通史のテキストの輪読を行う。本テキストはジャーナリズムの変化、発展をアメリカ社会の変化、発展との関係から理解しようとしたもので、それ以前のアメリカジャーナリズム史とは一線を画すものである。

This course performs careful reading in turns of the comprehensive history of American journalism by Emery et al.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：植民地時代から独立革命へ
- 3回：ペニープレスの革命
- 4回：南北戦争とメディア
- 5回：革新主義とプロフェッション
- 6回：イエロージャーナリズム
- 7回：第一次世界大戦とメディア
- 8回：両大戦間期のメディア
- 9回：第二次世界大戦とメディア
- 10回：赤狩りと客観報道
- 11回：大衆社会のメディア
- 12回：ヴェトナム戦争とニュージャーナリズム
- 13回：アメリカジャーナリズムの光と影
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを割り当てて、毎回、議論するので、担当以外の部分も必ず読んで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席、発表、議論など授業への参加:50%

テキスト / Textbooks

エメリーら著、大井真二ら訳 『アメリカ報道史』 松柏社 2016 9784775402382 -

参考文献 / Readings

ジャーナリズムスタディーズ演習

Seminar: Journalism Studies

ネット時代の米日欧ジャーナリズム

橋本 晃 (HASHIMOTO AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB740

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

メディアが情報を盛り込む器であるとしたら、ジャーナリズムはその器の中身、すなわち社会の存続、発展に不可欠な情報・オピニオン発信活動そのものである。インターネット時代に情報の器は大きく変容しつつあるが、肝心の中身は何が不変で何が変わりつつあるのか。器＝メディアと中身＝ジャーナリズム、さらには社会の三者の相互影響関係に留意しつつ、メディア・ジャーナリズム・社会の現在・近未来をトータルに把握する。

Media are containers in which information is poured, whereas journalism produces information contents which are indispensable for development of our society. In the digital information era, containers of information are dramatically changing, but as for contents, what is changing and what is unchanging? This course examines the present and future of journalism and media.

授業の内容 / Course Contents

インターネット、ソーシャルメディア全盛の時代だが、社会の存続・発展に不可欠の公共のことがらについての情報発信とオピニオン集約の活動は、アメリカではネット中心のメディアが一定のオルタナティブな役割を

演じているが、日本では皆無に近い。技術と経済ばかりが先行して進みがちなデジタルメディア革命の中で、忘れられがちなパブリックコミュニケーションの現在、近未来について、アメリカと日本、欧州のジャーナリズムの過去、現在を比較しつつ、展望する。

In the heyday of the Internet and social media,

in the United States, alternative online media play a significant role, whereas in Japan, we have no equivalent alternative media. Journalism provides public information and opinion which are indispensable for the existence and development of our society. But, in our country, no online media provide such public information. Only technology and economy tend to be emphasized in the digital information revolution in this country. This course focuses upon the present and near future of public communication, examining the past and present of journalism in the United States, Japan and Europe.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：メディア化時代のジャーナリズム
- 3回：ジャーナリズム教育
- 4回：情報源
- 5回：ゲートキーピング、スピン
- 6回：プロフェッショナリズムと客観性
- 7回：メディアとジェンダー
- 8回：ニュースバリュー
- 9回：メディアフレーム
- 10回：オルタナティブジャーナリズム
- 11回：グローバル化とジャーナリズム
- 12回：戦争と平和のジャーナリズム
- 13回：ジャーナリズム研究
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

教科書の指定された章を必ず読んで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 議論など授業への参加:50%

テキスト / Textbooks

大井眞二、田村紀雄、鈴木雄雅 『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために 第2版』 世界思想社 2018
9784790717157 -

参考文献 / Readings

文化人類学演習

Seminar: Cultural Anthropology

ラトゥールを読む

木村 自 (KIMURA MIZUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB750

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ブルーノ・ラトゥールの著作および関連する文献を講読することをおして、人類学と社会学を架橋する学術潮流について把握することを目標とする。

The goal of this course is to gain an overall picture of Latourian anthropology and sociology through reading Bruno Latour's works and related literature,

授業の内容 / Course Contents

ブルーノ・ラトゥールは、今日の文化人類学および社会学に多大な影響を与えた人類学／社会学者である。ブルーノ・ラトゥールの著作およびラトゥールについての研究成果を講読する。具体的な講読文献については、第1回目の授業に受講生との議論のうえ決定する。授業の進め方は以下のとおり。各回ともに授業の前半で、発表担当者がレジメを作成して、報告する。授業の後半で、参加者全員で、講読箇所について議論する。議論に参加しない人、とくに授業内容に関心がない人は受講しないこと。

Students will read basic literature of Latourian anthropology and sociology. The details will be decided in the first class with students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入および授業の進め方についての議論
- 2回：ラトウールに関する基礎文献を読む（1）
- 3回：ラトウールに関する基礎文献を読む（2）
- 4回：ラトウールに関する基礎文献を読む（3）
- 5回：ラトウールに関する基礎文献を読む（4）
- 6回：ラトウールの作品を読む（1）
- 7回：ラトウールの作品を読む（2）
- 8回：ラトウールの作品を読む（3）
- 9回：ラトウールの作品を読む（4）
- 10回：ラトウールの作品を読む（5）
- 11回：ラトウールの作品を読む（6）
- 12回：ラトウールの作品を読む（7）
- 13回：ラトウールの作品を読む（8）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業は基本的にディスカッションが中心となる。担当者は講読文献のレジюмеを作成する。参加者全員が授業までに文献に目を通しておく。授業はディスカッションが中心となる。ディスカッションに参加しない人、人類学やラトウールそのものに関心がない人は、受講しないこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での議論:100%

テキスト / Textbooks

テキストは授業内で指示する。

参考文献 / Readings**その他 / Others**

人類学やラトウールそのものに関心がない人は、受講しないこと。

現代文化社会論演習

Seminar: Contemporary Culture and Society

小泉 元宏 (KOIZUMI MOTOHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB752
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC6020
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代文化と社会の関係性に関する理論研究やプロジェクト（フィールドワーク／グループリサーチ等）、研究発表などへの参加を通じて、自らの研究を発展させていくことを目標とする。

This course provides an opportunity to study theories and practices of the relationship between contemporary culture and society.

授業の内容 / Course Contents

授業では、第一に、現代文化と社会的諸主体・制度・権力との関係性などに関する、文化批評理論や文化社会学、文化政策研究などの分野の理論研究を行っていく。さらに、履修者各自の問題意識やテーマ設定に基づいた研究発表およびディスカッションを実施する。その他、履修者の関心に基づきながら、随時、実践プロジェクトやフィールドワークへの参加を行う場合もある。

This course consists of:

- reading bibliographical materials of critical theories and cultural sociology
- analysing texts and discussions
- research presentations

- field research, practical projects

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：文献講読、ディスカッション
- 3回：文献講読、ディスカッション
- 4回：文献講読、ディスカッション
- 5回：文献講読、ディスカッション
- 6回：プロジェクト（グループリサーチ／フィールドワーク等）
- 7回：文献講読、ディスカッション
- 8回：文献講読、ディスカッション
- 9回：文献講読、ディスカッション
- 10回：プロジェクト（グループリサーチ／フィールドワーク等）
- 11回：研究発表、グループメンタリング
- 12回：研究発表、グループメンタリング
- 13回：研究発表、グループメンタリング
- 14回：プロジェクト（グループプレゼンテーション等）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読ならびに研究発表では、事前の発表準備等を行うことが必須となる。また、研究発表に関しては、自ら事前・追加調査研究を行うことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加（文献講読、研究発表、ディスカッションへの参加ほか）：100%

テキスト / Textbooks

履修者の関心に合わせ、指定する。

参考文献 / Readings

都度、紹介する。

消費社会・消費文化研究

Consumer Society and Consumer Culture

消費社会の歴史と現在

貞包 英之 (SADAKANE HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB753

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

消費社会の理論について詳細に理解する。

消費社会はいかなる過去を持ち、それが現在のあり方いかに影響を与えているかを詳細に理解する。

消費社会で展開されている様々な事象について社会学に則して理解する。

The goals of this class are as follows.

- 1) To understand in detail the theory of consumer society.
- 2) To understand in detail the past of the consumer society and how it has influenced the present.
- 3) To understand the different events that take place in consumer society according to sociology.

授業の内容 / Course Contents

消費社会について理解するためには、具体的な対象に即してその歴史について分析することが重要になります。そのため既存の文献を批判的に検討していくと同時に、みずから特定の対象を定め研究を進めていきます。その分析対象は、大衆文化を始め、性、家族、労働など多様な社会現象を期待します。

In order to understand consumer society, it is important to analyze its history in the context of a specific subject.

Therefore, while critically reviewing the existing literature, we expect each student to determine his or her own specific subject and pursue his or her own research. The subjects of analysis are expected to include a variety of social phenomena such as popular culture, sex, family, and labor.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：消費社会を考えることの展望と授業の詳細について説明する。
- 2 回：文献講読予定
- 3 回：文献講読予定
- 4 回：文献講読予定
- 5 回：文献講読予定
- 6 回：研究発表予定
- 7 回：研究発表予定
- 8 回：研究発表予定
- 9 回：研究発表予定
- 10 回：研究発表予定
- 11 回：研究発表予定
- 12 回：研究発表予定
- 13 回：研究発表予定
- 14 回：研究発表予定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを読むとともに、各自で調査・分析する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表 1:40% 発表 2:40% 授業参加度:20%

詳細は追って提示する

テキスト / Textbooks

- 貞包英之 『消費社会を問い直す』 筑摩書房 2023 ○
- ダニエル・ミラー 『消費は何を変えるのか』 法政大学出版局 2021 ○
- ジャン・ボードリヤール 『消費社会の神話と構造』 紀伊國屋書房 2015 ○

参考文献 / Readings

詳細は追って提示する

その他 / Others

初回時に説明と文献選定をおこなうため、かならず出席すること。

消費社会・消費文化演習

Seminar: Consumer Society and Consumer Culture

消費社会の歴史と現在

貞包 英之 (SADAKANE HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB754

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

消費社会の理論について詳細に理解する。

消費社会はいかなる過去を持ち、それが現在のあり方いかに影響を与えているかを詳細に理解する。

消費社会で展開されている様々な事象について社会学に則して理解する。

To understand in detail the theory of consumer society.

To understand in detail the past of the consumer society and how it has influenced the present.

To understand the different events that take place in consumer society according to sociology.

授業の内容 / Course Contents

消費社会について理解するためには、具体的な対象に即してその歴史について分析することが重要になります。そのため既存の文献を批判的に検討していくと同時に、みずから特定の対象を定め研究を進めていきます。この授業では参加者の学力、希望に応じて、共同の調査も考慮します。

In order to understand consumer society, it is important to analyze its history in the context of a specific subject.

Therefore, while critically reviewing the existing literature, we expect each student to determine his or her own

specific subject and pursue his or her own research. The subjects of analysis are expected to include a variety of social phenomena such as popular culture, sex, family, and labor.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：消費社会を考えることの展望と授業の詳細について説明する。
- 2回：文献講読予定
- 3回：文献講読予定
- 4回：文献講読予定
- 5回：文献講読予定
- 6回：研究発表予定
- 7回：研究発表予定
- 8回：研究発表予定
- 9回：研究発表予定
- 10回：研究発表予定
- 11回：研究発表予定
- 12回：研究発表予定
- 13回：研究発表予定
- 14回：研究発表予定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを読むとともに、各自で調査・分析する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表 1:40% 発表 2:40% 授業参加度:20%

詳細は追って提示する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

詳細は追って提示する

その他 / Others

初回時に説明と文献選定をおこなうため、かならず出席すること。

音楽社会学研究

Sociology of Music

音楽社会学研究の理論的潮流

井手口 彰典 (IDEGUCHI AKINORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB757
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC6010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

音楽社会学研究を進める上で必要となる基礎的な理論を修得するとともに、音楽社会学の成立経緯やその現代的な問題点などを理解する。

In this class, the instructor treat a basic theory which is needed when advancing sociology-of-music research. Students will be expected to understand the circumstances where sociology-of-music was established, and study its up-to-date problems.

授業の内容 / Course Contents

音楽社会学の広がり具体的な研究手法を、既存の文献の読解を通じて学ぶ。文献には基本的に日本語のものを用いるが、毎回多くの文章を読むため、受講者には十分な日本語の読解力が求められる。

Students will read important documents every week. Documents are written in Japanese basically. Students are required to have sufficient reading skills of Japanese.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：文献講読 1
- 3回：文献講読 2
- 4回：文献講読 3
- 5回：文献講読 4
- 6回：文献講読 5
- 7回：文献講読 6
- 8回：文献講読 7
- 9回：文献講読 8
- 10回：文献講読 9
- 11回：文献講読 10
- 12回：文献講読 11
- 13回：文献講読 12
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での発表および課題:100%

テキスト / Textbooks

授業内で指示する。

参考文献 / Readings

根岸一美（他編）『音楽学を学ぶ人のために』 世界思想社 2003 4790710335

ジョン・シェパード（他編）『ポピュラー・ミュージック・スタディーズ：人社会学際の前線』 音楽之友社 2005 4276230020

マーティン・クレイトン（他編）『音楽のカルチュラル・スタディーズ』 アルテスパブリッシング 2011 9784903951409

その他 / Others

書籍の輪読をベースとするが、適宜音例なども用いる。予め担当を決めて発表を求めることもある。文献の選択についてはある程度学生の興味・関心も反映させる予定である。

教育社会学演習

Seminar: Sociology of Education

教育格差、学校から職業への移行、高等教育

多喜 弘文 (TAKI HIROFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB762
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC6020
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、高等教育への進学と教育格差や学校から職業への移行にかんする英語文献を読むことを通じ、高等教育進学率の上昇が日本社会に何をもたらすのか、アメリカとの比較で考えられる視野を獲得する。文献の報告担当者は内容に関するプレゼンを行う。報告担当以外の受講生もコメントを用意し、全員でディスカッションを行う。

In this course, students will gain insights into the impact of the increasing rate of enrollment in higher education on Japanese society by reading literature on educational stratification and the transition from school to work. The presenter of each literature will deliver a presentation on the content. In addition to the presenters, other students will prepare comments, and everyone will engage in a group discussion.

授業の内容 / Course Contents

高等教育への進学と教育格差や職業への移行にかんする英語文献を取り上げる。各回について文献レビュー担当を割り振るが、ディスカッションを実りあるものとするために出席者は全員事前に文献を読み、コメントを用意してることが求められる。

The course will explore English literature on the topics of higher education enrollment, educational inequalities, and the transition from school to work. All the participants in this course are required to read the literature and prepare comments in advance in order to make the discussion fruitful.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・担当文献の割り振り
 2回：文献講読と議論 1
 3回：文献講読と議論 2
 4回：文献講読と議論 3
 5回：文献講読と議論 4
 6回：文献講読と議論 5
 7回：文献講読と議論 6
 8回：文献講読と議論 7
 9回：文献講読と議論 8
 10回：文献講読と議論 9
 11回：文献講読と議論 10
 12回：文献講読と議論 11
 13回：文献講読と議論 12
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前にその週の文献を読み、各々疑問点やコメントを用意すること。報告担当者はレジュメを準備して報告すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 指定された文献の紹介・発表:50% 議論への参加:30% 最終レポート:20%

テキスト / Textbooks

James E. Rosenbaum ほか Bridging the Gaps: College Pathways to Career Success Russell Sage Foundation
 2017 9780871547439 -

参考文献 / Readings

上記テキスト以外に取り上げる文献は授業時に紹介する。初回時にはテキストを購入していなくてもよい。

その他 / Others

初回に文献の紹介および各回の担当者の割り当てを行うので、履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。

経済社会学

Economic sociology

「埋め込みアプローチ」の展開

大倉 季久 (OHKURA SUEHISA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB765
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC6010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

経済現象を捉える基本的な視点として、「埋め込みアプローチ」の特徴を理解すること、および「埋め込みアプローチ」を通して今日起こっている経済現象の背後に存在するさまざまな問題の様相を社会的に認識すること。

Understanding the notion of embeddedness as a basic perspective on economic phenomena, and sociologically recognizing the various problems behind the economic phenomena that are occurring today through the notion of embeddedness.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、1980 年代後半以降、アメリカを中心に発展してきた「新しい経済社会学」の潮流をもとに、経済現象を社会的に考える視点と方法について概説する。とくに市場メカニズムの現代的な特徴の解明に焦点を据えて、経済現象を読み解く視点としての「埋め込みアプローチ」の特色について紹介していく。

This course is an introduction to sustainability studies. We will outline the viewpoints and methods of sociologically thinking about economic phenomena, based on the trend of "new economic sociology" that has

developed mainly in the United States since the latter half of the 1980s. Focusing on the the modern characteristics of the market mechanism, we will introduce the notion of embeddedness as a perspective of understanding economic phenomena.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションー経済学と経済社会学
- 2回：埋め込みアプローチの基礎 (1) 市場の時代としての現代社会
- 3回：埋め込みアプローチの基礎 (2) ネットワーク理論①弱い紐帯の強さ
- 4回：埋め込みアプローチの基礎 (3) ネットワーク理論②ネットワークの開放性と閉鎖性
- 5回：ビジネスの日常へ (1) 市場の中のネットワーク
- 6回：ビジネスの日常へ (2) 企業の秩序としての業界
- 7回：ビジネスの日常へ (3) 経済と権力
- 8回：世界経済のグローバル・シフトは何をもたらししているのか
- 9回：転職とキャリア
- 10回：仕事と家族
- 11回：経済と文化 (1) 市場と文化
- 12回：経済と文化 (2) 経済資本・文化資本・社会関係資本
- 13回：経済と文化 (3) 「人間の経済」と市場社会
- 14回：まとめとふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

本授業は経済社会学の理論的な枠組みの概説が中心となる。具体的な事例について、日ごろから新聞の経済関連の記事に目を通していくことが理解を深める早道である。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加:50% 授業内報告:50%

テキスト / Textbooks

各回の内容に合わせて指示する。

参考文献 / Readings

- 園田薫 『外国人雇用の産業社会学』 世界思想社 2023
 今井順 『雇用関係と社会的不平等』 有斐閣 2021
 ニーアル・ファーガソン 『スクエア・アンド・タワー』 東洋経済新報社 2019
 小林盾ほか編 『リーディングス・合理的選択理論』 勁草書房 2022
 第2回からの6回分の授業では、上記のうちから1冊を初回に選んで講読する予定である。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

紙での資料の配布は行いませんので、PCを用意してください。

経済社会学演習

Seminar: Economic sociology

経済社会学の現在

大倉 季久 (OHKURA SUEHISA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	MB766
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

経済社会学の基本的な理論と視点に関する理解を前提として、世界的な潮流もふまえながら、経済社会学の近年の新たな展開を、文献講読を通して理解を深める。

To deepen the understanding of recent new developments in economic sociology through reading literature, taking into account not only Japanese but also global trends, Based on an understanding of the basic theory of economic sociology.

授業の内容 / Course Contents

この授業ではまず、経済社会学のアプローチについて、マーク・グラノヴェター (Mark Granovetter) の諸理論を中心に、主に文献講読を通して検討する。グラノヴェターの業績は多岐にわたるが、この授業では最も新しい研究に関する検討から始めて、時間を遡りながら議論を深めていきたいと思っている。そのうえで、経済社会学の理論動向と関連する論文を講読する。

This course examines the approach of economic sociology, focusing on Mark Granovetter's theories, through reading the literature. Granovetter's achievements are diverse, but in this class we would like to start with his

recent research and go back in time to deepen the discussion

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：経済社会学の学説史に関するレクチャー
- 3回：文献講読とディスカッション
- 4回：文献講読とディスカッション
- 5回：文献講読とディスカッション
- 6回：文献講読とディスカッション
- 7回：文献講読とディスカッション
- 8回：文献講読とディスカッション
- 9回：文献講読とディスカッション
- 10回：文献講読とディスカッション
- 11回：文献講読とディスカッション
- 12回：文献講読とディスカッション
- 13回：文献講読とディスカッション
- 14回：まとめとふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

週ごとに指定される文献を必ず読んでくること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ディスカッションへの参加:50% 授業内報告（複数回実施する）:50%

テキスト / Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考文献 / Readings

- マーク・グラノヴェター 『社会と経済』 ミネルヴァ書房 2019
 筈井俊輔 『なぜ特異な仕事は生まれるのか』 京都大学学術出版会 2021
 山田陽子 『「心」をめぐる知のグローバル化と自律的個人像』 学文社 2007
 山田陽子 『働く人のための感情資本論』 青土社 2019

そのほか、適宜指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

紙の資料は配布しませんので、PCを用意してください。

ジェンダー演習

Seminar: Gender Studies

フェミニズム理論の歴史と現在

杉浦 郁子 (SUGIURA IKUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB768

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

フェミニズム理論が登場し発展した歴史的背景や、現在の理論の潮流を知る。

This course provides students with a comprehensive understanding of the historical background of the emergence and development of feminist theory.

授業の内容 / Course Contents

初期のフェミニズム理論が何を問題にし、それがどのような概念で明確化されてきたのかという歴史を概観する。そのうえで、現代社会においてジェンダー平等を追求するために必要なインターセクショナルなアプローチ方法について学ぶ。文献講読のセミナーである。

The history of early feminist theories and the concepts they articulated will be reviewed. The course will then focus on the intersectional approach to feminism that is necessary to pursue gender equality in contemporary society. This course is a seminar where students can read and discuss selected titles related to feminist theories.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、講読する文献の紹介、担当決め

- 2回：受講者の問題関心についての報告
 3回：文献講読・ディスカッション①
 4回：文献講読・ディスカッション②
 5回：文献講読・ディスカッション③
 6回：文献講読・ディスカッション④
 7回：文献講読・ディスカッション⑤
 8回：文献講読・ディスカッション⑥
 9回：文献講読・ディスカッション⑦
 10回：文献講読・ディスカッション⑧
 11回：文献講読・ディスカッション⑨
 12回：文献講読・ディスカッション⑩
 13回：文献講読・ディスカッション⑪
 14回：文献講読・ディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講読する文献を読んだうえで論点や疑問点を整理して授業に臨むこと。報告者は、報告用の資料を作成し、事前に共有すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:50% 議論への貢献:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

清水晶子 『フェミニズムってなんですか?』 文春新書 2022 4166613618

授業時に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC ないしモバイル端末

その他 / Others

購読する文献について。初回の授業で、講読文献の候補を複数提示する。受講希望者と相談のうえ、購読文献を決定する。受講者からの提案も歓迎する。

社会学特殊研究 B

Special Study on Sociology B

言説の社会的分析の基礎

仁平 典宏 (NIHEI NORIHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	MB772
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC6020
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

- 言説を社会的に分析する上で、いかなる方法的立場があるか理解する
- それぞれの方法には、どのような前提と課題があるのか理解する
- 簡単な計量テキスト分析（テキストマイニング）ができるようになる

The aim of the class is to understand a variety of methodologies in the sociological analysis of discourse, to understand the assumptions and difficulties in each method, and to be able to perform simple quantitative text analysis.

授業の内容 / Course Contents

社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフーコー的言説分析から、概念分析、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する認識論的な前提が厳しく問われることもある。

本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有して

いるのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的にはKHコーダー等を用いたワークも活用しながら理解を深めていきたい。

なお受講者は言説研究の経験者である必要はない。むしろ、初めて言説を用いて修士論文、投稿論文、その他論文等を書く人も含め、本方法論に関する基本的な議論の特徴を理解できるようになることが主な目的である。

It has been produced a lot of sociological studies on discourses, which are based on a variety of theories and methodologies including social constructionism, Foucauldian discourse analysis, and text-mining using natural linguistic processing. Each study can be reviewed not only its originality but also the validity of analytical procedure and the ontological/epistemological assumption about the relationship between discourse and society. The aim of the class is to gain a basic understanding of what sorts of sociological methodologies of analysis of discourse there are and what presumption and limit each one has. Participants are supposed to read designated texts, to take part in discussions on them actively, and to engage in a trial work.

Participants are not required an experience of studying discourses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：事例としての「いじめ」言説
- 3回：方法論的構築主義をめぐって
- 4回：言説と「実態」——統計の位置づけについて
- 5回：歴史と言説
- 6回：権力と言説
- 7回：言説と実践
- 8回：対話的構築主義をめぐって
- 9回：概念分析について1
- 10回：概念分析について2
- 11回：計量テキスト分析のロジックと方法
- 12回：計量テキスト分析の実際1
- 13回：計量テキスト分析の実際2
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当者以外も検討文献を読み、疑問点や興味深い点について整理しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポーターとしての報告:40% 毎回の議論への参加:60%

テキスト / Textbooks

初回に連絡する。

参考文献 / Readings

- 佐藤俊樹・友枝敏雄編 『言説分析の可能性—社会学的方法の迷宮から』 東信堂
- スペクター, J.I. & キッセ, M.B. 『社会問題の構築—ラベリング理論を超えて』 マルジュ社
- 中河伸俊・赤川学編 『方法としての構築主義』 勁草書房
- 酒井泰斗他編 『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』 ナカニシヤ出版
- 樋口耕一 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【2版】』 ナカニシヤ出版
- 仁平典宏 『ボランティアの誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』 名古屋大学出版会

その他 / Others

<https://researchmap.jp/nihenori>

社会学特殊研究D

Special Study on Sociology D

支援の社会学

佐藤 恵 (SATO KEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： MB774
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC6020
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

困難を抱える当事者とそれをサポートする支援者の経験について、支援と「支え合い」のテーマ(震災復興支援、障害者支援、犯罪被害者支援 等)に関する視点・発想をふまえた上で、具体的事例の検討を通して、理解を深めていきます。

なお、関連するテーマとして、以下を設定します。

- * 排除／包摂
- * 排除された人々の抵抗やアイデンティティ・マネジメントとその支援
- * 異質性への対処／異文化共生
- * ボランティア／NPO
- * ピア・サポート／セルフヘルプ・グループ 等

Students will study party involved and burdened by hardships, as well as benefactor experience from perspective of unilateral and mutual support. Students will deepen their understanding by discussing specific cases.

授業の内容 / Course Contents

「授業の目標」に記した、支援と「支え合い」のテーマ、および関連テーマに関する文献を講読し、基本的な視点・発想を共有した上で、参加者各自が関心を持つ具体的事例についてプレゼンテーションを行い、それをもとにしたディスカッションを通して、互いの問題意識の明確化、社会学的考察の深化を図ります。

Students will read texts on unilateral and mutual support. They will share their basic perspectives and ideas. After that, they will select specific cases they are interested in and make presentations. By participating in subject discussions, they will clarify their issue awareness and deepen their sociological analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：文献講読とディスカッション（1）
- 3回：文献講読とディスカッション（2）
- 4回：文献講読とディスカッション（3）
- 5回：文献講読とディスカッション（4）
- 6回：文献講読とディスカッション（5）
- 7回：文献講読とディスカッション（6）
- 8回：参加者によるプレゼンテーション（自由報告）とディスカッション（1）
- 9回：参加者によるプレゼンテーション（自由報告）とディスカッション（2）
- 10回：参加者によるプレゼンテーション（自由報告）とディスカッション（3）
- 11回：参加者によるプレゼンテーション（自由報告）とディスカッション（4）
- 12回：参加者によるプレゼンテーション（自由報告）とディスカッション（5）
- 13回：参加者によるプレゼンテーション（自由報告）とディスカッション（6）
- 14回：まとめ・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「授業の目標」に記した、支援と「支え合い」を中心とする各テーマについて、自分の関心のある具体的事例を取り上げ、適宜、資料を収集しつつ、各回の授業で学んだ視点・発想を応用する練習をしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 文献講読、プレゼンテーション:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

- 崎山・伊藤・佐藤・三井 編 『〈支援〉の社会学：現場に向き合う思考』 青弓社 2008 9784787232915
 伊藤智樹 編 『ピア・サポートの社会学：ALS、認知症介護、依存症、自死遺児、犯罪被害者の物語を聴く』 晃洋書房 2013 9784771024816
 佐藤恵 『自立と支援の社会学：阪神大震災とボランティア』 東信堂 2010 9784887139497
 天田・渡辺 編 『大震災の生存学』 青弓社 2015 9784787233929

栗原彬 編 『共生の方へ：講座 差別の社会学 第4巻』 弘文堂 1997 4335501544

奥村隆 『他者という技法：コミュニケーションの社会学』 日本評論社 1998 4535560684

梶原景昭 他 『異文化の共存：岩波講座 文化人類学 第8巻』 岩波書店 1997 4000107488

上記以外にも、授業中に随時、紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

教材 PDF の配布や連絡事項のお知らせ等に「Canvas LMS」を使用します。

教材については、プリントアウトして教室に持参していただくか、あるいはプリントアウトはしなくてもお手持の PC、タブレット、スマホなどの端末で授業中に教材を見られるようにしておいてください。

社会学特殊研究 E

Special Study on Sociology E

後期近代における社会心性を考える

土井 隆義 (DOI TAKAYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB775

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代の日本では、いわゆる「モノ消費」から「コミュニケーション消費」への移行が、急激に進行しています。また「包摂型の社会」から「排除型の社会」への移行が加速しているともいわれます。その諸相を支える社会心性と、その社会的背景について、社会学の概念を応用しながら検討していきます。

In modern Japan, we are moving rapidly from object to communication consumption. We can also say that society is moving from inclusion to exclusion. Students will apply sociology concepts when discussing social contexts and psychologies that have supported these phenomena.

授業の内容 / Course Contents

最初に、現代の社会統制における諸問題について、ジョック・ヤングの『排除型社会』の講読を行ないつつ、後期近代という観点から論点整理とその社会学的含意の検討を行ないます。次に、現代の日本で進行しつつある特徴的な諸現象について、後期近代に関する様々な文献を参照にしつつ、また具体的な事例を素材として取り上げながら、その社会学的含意を検討していきます。履修学生には、文献の報告を行なうだけでなく、具体的な社会現象を取り上げて独自に調査し、その内容について報告することが求められます。

First, students will read Jock Young's *The Exclusive Society*, which discusses various problems in governing modern society. Students will organize their arguments from late modern-age perspective and discuss their sociological significances. Next, students will refer to various literatures about the late modern-age to study unique phenomena taking place in modern Japan. Students will select specific cases as materials and discuss their sociological significances. Students will not only make literature reports, they will also select and research specific social phenomena, and create reports on their findings.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：共通文献の輪読をおこなう（1）
- 2回：共通文献の輪読をおこなう（2）
- 3回：共通文献の輪読をおこなう（3）
- 4回：共通文献の輪読をおこなう（4）
- 5回：各自が関心のある社会現象を選択し、その概要について報告する（1）
- 6回：各自が関心のある社会現象を選択し、その概要について報告する（2）
- 7回：選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する（1）
- 8回：選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する（2）
- 9回：選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する（3）
- 10回：選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する（4）
- 11回：選択した社会現象を社会的に分析し、その結果について報告する（1）
- 12回：選択した社会現象を社会的に分析し、その結果について報告する（2）
- 13回：選択した社会現象を社会的に分析し、その結果について報告する（3）
- 14回：選択した社会現象を社会的に分析し、その結果について報告する（4）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で自分が取り上げる社会現象について、予め選択し、調査を開始しておくことが望ましいでしょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 輪読における報告内容:20% 選択テーマの報告内容:20% 個別文官の報告内容:20%
研究成果の報告内容:20% 討論への参加度:20%

テキスト / Textbooks

ジョック・ヤング 『排除型社会』 洛北出版 2007 9784903127040 -

参考文献 / Readings

ジョック・ヤング 『後期近代の眩暈』 青土社 2016

デボラ・チェンバース 『友情化する社会』 岩波書店 2015

アンソニー・ギデンズ 『モダニティと自己アイデンティティ－後期近代における自己と社会』 ハーベスト社 2005

ジークムント・バウマン 『リキッド・モダニティ』 大月書店 2001 4272430572

ウルリヒ・ベック 『危険社会』 法政大学出版局 1998

アンディ・ファーロン／フレッド・カートメル 『若者と社会変容』 大月書店 2009

土井隆義 『少年犯罪〈減少〉のパラドクス』 岩波書店 2012

社会学特殊研究 F

Special Study on Sociology F

フィールドワークに基づく地域社会学・環境社会学

松村 正治 (MATSUMURA MASAHARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： MB776

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC6020

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

・フィールドワークで得られた質的なデータに基づき、社会的な問いを設定して分析・考察できるようになること。

・研究する者（自分）の立場性や研究する際の視点について、批判的に（自省的に）考えられるようになること。

・ To be able to set up, analyze, and discuss sociological questions based on qualitative data obtained through fieldwork.

・ To be able to think critically and self-reflexively about the positionality of the researcher and the perspective of research.

授業の内容 / Course Contents

おもに地域社会学・環境社会学におけるテキストを取り上げ、ディスカッションを通して、社会的な方法論を批判的に検討し、その可能性と限界について考えます。

個別具体的な社会現象を記述するだけでなく、そのデータをどう扱おうと面白くなるのかを考えます。したが

って、学術的な面白さとは何かについて深く考えることを求めます。

We will take up texts mainly in regional sociology and environmental sociology, and critically examine sociological methodologies through discussions and consider their possibilities and limitations.

We will not only describe specific social phenomena, but also think about how to deal with the data to make it interesting. Therefore, you need to think deeply about what is academically interesting..

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・授業計画の検討
- 2回：フィールドワークの方法論：生活環境主義との対話
- 3回：どのように規範は語れるのか：公共社会学という方法
- 4回：履修生による発表とディスカッション(1)
- 5回：履修生による発表とディスカッション(2)
- 6回：研究する者の立場性/位置性（ポジショナリティ）
- 7回：個人のライフストーリーと「語り」の取り扱い
- 8回：ゲストスピーカーとの対話
- 9回：履修生による発表とディスカッション(3)
- 10回：履修生による発表とディスカッション(4)
- 11回：社会の時間・空間スケールの重層性
- 12回：私たちの未来社会：成長か脱成長か反貧困か
- 13回：人新世時代の人間と社会の関係性
- 14回：履修生からの問題提起・総合討論・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げるテキストを読み、議論すべきポイント（論点）と、それに対する自分の考えを準備してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容 (Presentation) :50% ディスカッションへの貢献 (Discussion) :50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- ケン・プラマー 『21世紀を生きるための社会学の教科書』 筑摩書房 2021 4480510311
 岸政彦編 『東京の生活史』 筑摩書房 2021 4480816836
 関礼子編 『語り継ぐ経験の居場所』 新曜社 2023 4788518309
 藤川賢・友澤悠季編 『なぜ公害は続くのか』 新泉社 2023 4787723014
 小熊英二 『生きて帰ってきた男：－ある日本兵の戦争と戦後』 岩波書店 2015 4004315492

菅豊・北條勝貴編 『パブリック・ヒストリー入門：開かれた歴史学への挑戦』 勉誠出版 2019
4585222545

野村康編 『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』 名古屋大学出版会 2017
4815808767

渡辺一史 (2011) 『北の無人駅から』 北海道新聞社.

小倉美恵子 (2011) 『オオカミの護符』 新潮社.

瀧口夕美 (2013) 『民族衣装を着なかったアイヌ：北の女たちから伝えられたこと』 編集グループSURE.

永野三智 (2018) 『みな、やっとの思いで坂をのぼる：水俣病患者相談のいま』 ころから.

上間陽子 (2020) 『海をあげる』 筑摩書房.

その他/ Others

担当者の HP <https://marrmur.com/>

社会学基礎論

Foundations of Sociology

松本 康 (MATSUMOTO YASUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	SX101
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC7010
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

大学院後期課程レベルでの社会学的研究に必要なとなる理論的基礎について理解を深める。理論的研究を志す学生はもちろんのこと、経験的研究を志す学生にとっても、各自の研究の理論的位置づけを論述できるようにする。あわせて研究倫理についても研修する。

The objective of this course is to introduce students to basic understanding of sociological theories required at the graduate level. It enables those who address empirical research, as well as those interested in theoretical issues, to describe individual study theoretically. The course also gives instruction on research ethics.

授業の内容 / Course Contents

社会学は、市民革命と産業革命を背景として、18世紀末から19世紀初頭にヨーロッパにおいて形成され、20世紀に入って、米国で著しい発展をみた。この授業では、草創期の社会学（サンシモン、コント、スペンサー）の概要を理解したうえで、闘争理論（マルクス）、社会学的実証主義（デュルケム）、相互作用論（ジンメル）、理解社会学（ヴェーバー）など19世紀から20世紀初頭にかけてのヨーロッパ社会学の展開を追うとともに、米国における社会学理論の発展を、シカゴ学派、構造機能主義、コロンビア学派の計量研究の3つの系譜によって整理する。

Sociology was shaped during the late 18th and early 19th centuries with bourgeois and industrial revolutions as backdrop and has prominently developed in the 20th century in the US. This course introduces students to sociological thoughts in the early days (Saint-Simon, August Comte, and Herbert Spencer), followed by conflict theory (Karl Marx), interactionism (Georg Simmel), and interpretive sociology (Max Weber) developed during the 19th and early 20th centuries in Europe, and describes trends of American sociology in the 20th century focusing on the Chicago School, structural functionalism, and the Columbia School of Quantitative Sociology; all three are the starting points of contemporary sociology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：草創期の社会学：サンシモン、コント、スペンサー
- 3回：闘争理論の源流：カール・マルクス
- 4回：社会学的実証主義：エミール・デュルケム
- 5回：相互作用と社会化の諸形式：ゲオルク・ジンメル
- 6回：討論：マルクス、デュルケム、ジンメル
- 7回：都市と社会改革：ロバート・パークとシカゴ学派
- 8回：理解社会学：マックス・ヴェーバー
- 9回：構造機能主義(1)：タルコット・パーソンズ
- 10回：討論：シカゴ学派、ヴェーバー、パーソンズ
- 11回：構造機能主義(2)：マートンとスメルサー
- 12回：計量社会学：ラザースフェルドとコロンビア学派
- 13回：シンボリック相互作用論と現象学的社会学
- 14回：討論：マートン、ラザースフェルド、ブルーマー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リーディング・アサインメントにもとづく小レポート課題（1600字）を授業期間中10回課す。最終レポートでは、授業で取り上げた社会学者を1人以上選んで論評すること。また、授業期間中にJSPS研究倫理eラーニングコースを修了すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小レポート10回分：50% 授業へのリアクション：30% 最終レポート割合：20%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。eL CoRE（JSPS研究倫理eラーニングコース）を修了していない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

授業時にレジュメを配布する。リーディング・アサインメントの教材はCanvas LMS上でも利用できる。

参考文献 / Readings

- C.W.ミルズ 『社会学的想像力』 筑摩書房 2017年 4480097813
マルクス＝エンゲルス 『共産党宣言 共産主義の原理』 大月書店 1952年
デュルケム 『社会学的方法の規準』 岩波書店 1978年 4003421434
松本康編 『都市社会学セレクション1 近代アーバニズム』 日本評論社 2011年 453558592
マックス・ヴェーバー 『社会学の根本概念』 岩波書店 1972年 4003420969
タルコット・パーソンズ 『社会体系論』 青木書店 1974年 425074017
ロバート・K・マートン 『社会理論と社会構造』 みすず書房 1961年 4622017059
8. ラザースフェルド他『ピープルズ・チョイス』 芦書房、1987年
9. ハーバート・ブルーマー『シンボリック相互作用論』 勁草書房、1991年
翻訳については、他の版を使用してもかまわないし、外国語訳を使用してもかまわない。入手不可能なものは、図書館を利用すること。詳細は第1回目に指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レポート及びeL CoRE 修了証の提出は原則としてCanvas LMSを使用する。

現代社会学理論

Modern Sociological Theory

社会意識を読み解くための理論

片上 平二郎 (KATAKAMI HEIJIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

講読によって現代社会学理論の潮流を知る。

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に着けることを目標とする。

This course purposes is to learn about the current trends in contemporary sociological theory by reading texts.

授業の内容 / Course Contents

この授業は現代社会学理論の潮流を知るために、理論的文献を読んでいく授業である。今期は社会現象と社会意識の関係をとらえるための理論的な視座を学んでいく。

発表は、原則的に文章化したレジュメを用意してもらうかたちとなる。

The course is composed of readings and discussions. Students learn the current trends in contemporary sociological theory through the reading of sociological texts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：文献講読

3回：文献講読
 4回：文献講読
 5回：文献講読
 6回：文献講読
 7回：文献講読
 8回：文献講読
 9回：文献講読
 10回：文献講読
 11回：文献講読
 12回：文献講読
 13回：文献講読
 14回：文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読の授業であるため、予習として、参加者全員がテキストの該当部を毎回事前に読んでおくことを前提として授業を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と討論:100%

すべての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

テリー・イーグルトン 『イデオロギーとは何か』 平凡社 1999 4582762816 -

上述にあげたものはあくまで候補であり、実際には受講生との相談の上、読んでいく書物を決めたい。また、テキストに付随し、関連した文献を読むこともある。

参考文献 / Readings

奥村隆編 『戦後日本の社会意識論 -- ある社会学的想像力の系譜』 有斐閣 2023 9784641174900

ジョン・ストーリー 『ポップ・カルチャー批評の理論: 現代思想とカルチュラル・スタディーズ』 小鳥遊書房 2023 4867800147

相互行為論

Social Interaction

相互行為論の基本的な考え方・分析の態度

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に着けることを目標とする

是永 論 (KORENAGA RON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会学における相互行為論の基本的な考え方を理解し、事例分析の能力を習得する。

This course aims to study social interaction in sociology and acquire skills to analyse data.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、従来の社会学におけるアプローチに加えて、E.ゴフマンの著作およびエスノメソドロジーの視点から、相互行為の分析方法について検討する。データに志向した研究の方法について検討するために、履修者自身が企画するデータセッションを行う。

In addition to conventional sociological approaches, this course will accord students the methods to analyse social interaction from the viewpoint of E.Goffman and ethnomethodology. Students will also have to conduct data-sessions by themselves to consider data-oriented methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：文献の報告・事例の検討
 3回：文献の報告・事例の検討
 4回：文献の報告・事例の検討
 5回：文献の報告・事例の検討
 6回：文献の報告・事例の検討
 7回：文献の報告・事例の検討
 8回：文献の報告・事例の検討
 9回：文献の報告・事例の検討
 10回：文献の報告・事例の検討
 11回：文献の報告・事例の検討
 12回：文献の報告・事例の検討
 13回：文献の報告・事例の検討
 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加の積極性:50% 報告・発表内容 (事例分析にかかわる高水準の報告を含む) :50%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Dennis,A., R. Philburn and G. Smith Sociologies of interaction Polity Press 2013 9780745646077 -

授業時に指示する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

社会階層論

Social Stratification

格差と不平等の社会学

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に着けることを目標とする

永吉 希久子 (NAGAYOSHI KIKUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、社会階層研究の日本語・英語の文献を通して、格差がどのように生じているのかについて考えるための土台となる知識を身につけ、議論できるようになることにある。学生は割り当てられた文献のレビューを行い、コメントをつけてプレゼンを行うこと、またそのプレゼンに対しディスカッションを行うことが求められる。

This seminar aims to provide students with foundational knowledge for thinking about and discussing how inequality arises through the Japanese and English literature on the study of social stratification. Students will be required to review the assigned literature and make a presentation with comments. Following the report by the student in charge, all students will engage in a discussion.

授業の内容 / Course Contents

授業では初回に担当を割り振り、担当回の学生は、予め社会階層に関するテキストの指定範囲、もしくは指定した日本語・英語論文のレビューを行い、授業で報告する。この報告を通し、社会階層と不平等研究の基本的

な概念や理論的な枠組みの知識を身につけることが期待される。

In the first session of the class, students will be assigned a literature review. The student in charge of the assigned session will review a specified range of texts or a selected Japanese/English article on social stratification and report it in class. Through these reports, students are expected to acquire knowledge of the basic concepts and theoretical frameworks of social stratification and inequality research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション・分担の割り当て
- 2 回：『格差の社会学入門』2章「所得の格差」3章「貧困と生活保護」
- 3 回：『格差の社会学入門』4章「非正規雇用」5章「社会階層と階級」
- 4 回：『格差の社会学入門』6章「世代間移動」7章「学歴社会」
- 5 回：『格差の社会学入門』8章「機会の不平等（1）」9章「機会の不平等（2）」
- 6 回：『格差の社会学入門』10章「機会の不平等（3）」「おわりに」
- 7 回：Relational Inequality Chap. 1 “Generating Inequality”
- 8 回：Relational Inequality Chap. 2 “Observing Inequality”
- 9 回：Relational Inequality Chap. 3 “Relational Inequality Theory”
- 10 回：Relational Inequality Chap. 4 “Organizational Inequality Regime”
- 11 回：Relational Inequality Chap. 5 “Exploitation”
- 12 回：Relational Inequality Chap. 6 “Social Closure”
- 13 回：Relational Inequality Chap. 7 “Relational Claims-Making”
- 14 回：Relational Inequality Chap. 9 “Expanding the Moral Circles”

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定文献は予め目を通しておくこと。発表担当者はレジュメを用意する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 担当回での報告：60% 授業への貢献（発言など）：30% コメントシート：10%

すべての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

平沢和司 『格差の社会学入門（第2版）』 北海道大学出版会 2021 9784832968813 ○

Tomaskovic-Devey, Donald and Dustin Avent-Holt Relational Inequalities: An Organizational Approach
Oxford University Press 2019 9780190624422 -

1つ目のテキストは入手しておく。2つ目のテキストについては初回に案内する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

初回に授業の方針を説明し、割り当ても行うので、履修希望者は必ず出席すること。

ジェンダーとセクシュアリティ

Gender and Sexuality

クィア・スタディーズの視座を応用する

杉浦 郁子 (SUGIURA IKUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

クィア・スタディーズの重要概念や研究範囲を理解し、それを自身の研究に応用できるようになる。

The course aims to provide students with an understanding of the fundamental concepts and the scope of queer studies, as well as the ability to apply them to their own research.

授業の内容 / Course Contents

国内外の異なる文脈においてなされたクィア・スタディーズを学ぶ。関連文献を読み、議論することで、クィア・スタディーズの基本的な視座や、学際的、方法論的、理論的パラダイムについての理解を深める。

By reading and discussing relevant literature, students will deepen their understanding of not only the fundamental ideas, but also the various interdisciplinary, methodological, and theoretical paradigms in the field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、講読する文献の紹介、担当決め

2 回：受講者の問題関心についての報告

3 回：文献講読・ディスカッション①

- 4回：文献講読・ディスカッション②
 5回：文献講読・ディスカッション③
 6回：文献講読・ディスカッション④
 7回：文献講読・ディスカッション⑤
 8回：文献講読・ディスカッション⑥
 9回：文献講読・ディスカッション⑦
 10回：文献講読・ディスカッション⑧
 11回：文献講読・ディスカッション⑨
 12回：文献講読・ディスカッション⑩
 13回：文献講読・ディスカッション⑪
 14回：文献講読・ディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講読する文献を読んだうえで論点や疑問点を整理して授業に臨むこと。報告者は、報告用の資料を作成し、事前に共有すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:50% 議論への貢献:50%

すべての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

森山至貴 『LGBTを読み解く——クィア・スタディーズ入門 ちくま新書 2017 4480069437

授業中に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC ないしモバイル端末。

その他 / Others

講読する文献について。初回の授業で、講読文献の候補を複数提示する。受講希望者と相談のうえ、購読文献を決定する。受講者からの提案も歓迎する。

人種とエスニシティ

Race and Ethnicity

人種・エスニシティをめぐる社会学(人類学) 理論を学ぶ
前期課程よりも高度な知識・スキルを身に着けることを目標とする

小林 真生 (KOBAYASHI MASAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

教科書と具体的な事例分析を通じ、人種とエスニシティをめぐる論点についてより掘り下げた理解を深め、各自の博士論文に活かすことができる視座を発見することを、本授業の目標とする。

授業の内容 / Course Contents

履修者の博士論文の主題と人数に応じて、適切な数と内容の論文を取り上げ、グローバル化をめぐる社会学・人類学の主要な理論について掘り下げて学んでいく。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：文献講読＋グループ・ディスカッション 1

3 回：文献講読＋グループ・ディスカッション 2

4 回：文献講読＋グループ・ディスカッション 3

5 回：文献講読＋グループ・ディスカッション 4

- 6回：文献講読＋グループ・ディスカッション 5
 7回：文献講読＋グループ・ディスカッション 6
 8回：文献講読＋グループ・ディスカッション 7
 9回：文献講読＋グループ・ディスカッション 8
 10回：文献講読＋グループ・ディスカッション 9
 11回：文献講読＋グループ・ディスカッション 10
 12回：文献講読＋グループ・ディスカッション 11
 13回：文献講読＋グループ・ディスカッション 12
 14回：文献講読＋グループ・ディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・毎回の授業の前に、その回で扱う部分の教科書の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。
- ・履修者の希望等に応じて、履修者の論文進捗状況の報告や、外部者による講演を実施することもある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容・ディスカッションへの貢献度によって、総合的に評価する:100%
 全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

初回授業で履修者の専門を確認のうえ、指定する。

参考文献 / Readings

適宜、授業のなかで提示していく。

社会老年学

Social Gerontology

安藤 孝敏 (ANDO TAKATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： SX107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC7010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「高齢社会における高齢者」の理解を中心に据え、社会老年学とはどういう学問であるのかを、自分の博士論文計画と関連させて理解し、それを口頭報告及びレポートで表現できるようになること。

Students will focus on understanding senior citizens living in aging society. Students will understand social gerontology by linking it with their doctoral thesis plans and be able to express this in oral reports and research reports.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、社会老年学の最新の文献から、受講者が興味・関心のある文献を選んで発表し、その内容についてディスカッションする形式で進める。発表する文献は事前に配布し、当日はその文献の内容をまとめたレジюмеなどを用意する。発表する文献は受講者と協議して決定する。

In this class, students will select and present articles that they are interested in from the latest literature on social gerontology, and proceed in a format in which they discuss the content. Papers to be presented will be distributed in advance, and a resume summarizing the contents of the papers will be prepared on the day. The literature to be presented will be decided in consultation with the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：文献の発表とディスカッション
 3回：文献の発表とディスカッション
 4回：文献の発表とディスカッション
 5回：文献の発表とディスカッション
 6回：文献の発表とディスカッション
 7回：文献の発表とディスカッション
 8回：文献の発表とディスカッション
 9回：文献の発表とディスカッション
 10回：文献の発表とディスカッション
 11回：文献の発表とディスカッション
 12回：文献の発表とディスカッション
 13回：文献の発表とディスカッション
 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

発表に基づきディスカッションを行うので、発表者は前もって議論すべき論点を整理しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表資料の準備と発表内容:60% ディスカッションへの参加度:40%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業内で適時紹介する。

その他 / Others

後期課程の学生は授業でのディスカッションをリードできるよう、積極的に参加すること。

家族社会学

Sociology of Family

「家族の多様化」を考える。(Considering the "Diversification of Family".)

本多 真隆 (HONDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、家族と親密な関係についての国内外の文献を講読し、ディスカッションすることで、「家族の多様化」のあり方を理解、分析するための理論の習得を目指す。

さらに本講義では、それらの理論の応用についても検討する。具体的には、理論の発展可能性の検討、そして政策提言など社会の現場への適用可能性の検討である。海外文献の理論の場合は、国内の理論との関係、また日本社会への適用を考える。

授業の内容 / Course Contents

近年、欧米先進諸国を中心として「家族の多様化」が注目を集めており、国内外の家族研究ではその現状を捉えるための理論研究が活性化している。またフェミニズムやクィア理論、政治哲学など他分野の知見の導入も進んでおり、現代の家族研究はこうした動向を知ることなしに理解することは難しい。

本講義では、こうした近年の国内外の家族研究の動向を学ぶ。具体的には、研究動向に関する文献や、現代家族の状況に関する質的研究の文献を講読し、ディスカッションする。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：文献の選定と割り当て
 2回：文献講読とディスカッション 1
 3回：文献講読とディスカッション 2
 4回：文献講読とディスカッション 3
 5回：文献講読とディスカッション 4
 6回：文献講読とディスカッション 5
 7回：文献講読とディスカッション 6
 8回：文献講読とディスカッション 7
 9回：文献講読とディスカッション 8
 10回：文献講読とディスカッション 9
 11回：文献講読とディスカッション 10
 12回：文献講読とディスカッション 11
 13回：文献講読とディスカッション 12
 14回：文献講読とディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者はレジュメを作成し、事前に共有すること。また各回の講義で取り上げる文献は、報告者以外も読んでおくことが必須である。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告の充実度:35% 出席、議論の参加:35% 課題:30%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

Deborah Chambers & Pablo Gracia A Sociology of Family Life Polity 2021 9781509541355

講義中に適宜紹介する。

その他 / Others

講読文献は、受講者の関心も踏まえて初回に提示する。初回に文献の紹介と割り当てを行うので、履修希望者は、初回の講義には必ず出席すること。

宗教社会学

Sociology of Religion

宗教社会学の入門（*なお、大学院には「[基礎科目としての] 宗教社会学 [この科目]」「宗教社会学演習」「宗教社会学研究」の3科目があるので注意すること）

小池 靖 (KOIKE YASUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代的な宗教社会学の基礎文献の輪読を通じて、宗教と社会の現在について考察する。博士後期課程学生については、より高い達成水準を期待したい。

Through a circular reading of the basic literature of contemporary sociology of religion, the course will examine the present state of religion and society. For doctoral students, a higher level of achievement is expected.

授業の内容 / Course Contents

草創期の社会学では、宗教とは、消えゆく前近代の秩序を代表するものであり、それゆえに社会学の関心の中心にあった。このクラスでは、基礎科目として、現代社会における宗教を社会学的にどうとらえるのかということ、輪読やディスカッションによって検討する。映像資料を見る回も設ける。

In pioneering sociology, religion represented a vanishing pre-modern order and was therefore central to sociological concerns. In this class, as a foundational course, we will examine how religion in contemporary society is viewed sociologically through readings and discussions. There will also be times to view video materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：学生による発表1
- 3回：学生による発表2
- 4回：学生による発表3
- 5回：映像資料1
- 6回：輪読1
- 7回：輪読2
- 8回：輪読3
- 9回：映像資料2
- 10回：輪読4
- 11回：輪読5
- 12回：輪読6
- 13回：映像資料3
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献の読み込み等。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:50% 発表以外の要素(授業への貢献、レポートなどの提出物):50%

博士後期課程学生には、前期課程学生の模範となるようなコミットメントを期待したい。

テキスト/ Textbooks

随時指示する。

参考文献 / Readings

- Adam Possamai The i-zation of Society, Religion, and Neoliberal Post-Secularism Palgrave Macmillan 2017
- Adam Possamai Sociology of Religion for Generations X and Y Routledge 2009
- メレディス・B・マクガイア 『宗教社会学：宗教と社会のダイナミックス』 明石書店 2008

その他/ Others

その他の諸注意：

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

政治社会学

Political Sociology

効果的利他主義と長期主義：可能性と限界

堀内 進之介 (HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX110

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 文献の内容を適切に要約し、内容に関するコメントができる力を身に付ける。
- 政治的な問題を批判的に考え、データに基づいて政策を分析し、より公正で持続可能な社会をつくる方法を考えられるようになる。

The course objectives are to enable students to:

Summarize literature contents appropriately and develop the ability to comment on the contents.

Think critically about political issues, analyze policies based on evidence, and consider ways to build a more just and sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

現代社会は、気候変動、格差、健康、テクノロジーなど、多くの課題に直面しています。この授業では、これらの課題に対して、効果的利他主義や長期主義といった考え方でアプローチすることを学びます。

効果的利他主義とは、可能な限り多くの人々の幸福を最大化することを目指す思想です。資源が限られる中で、誰の幸福を優先すべきかという判断基準を提供します。長期主義は、近視眼的な利益を超えて、将来の世

代の幸福も考慮に入れることの重要性を唱えます。

授業では、これらの考え方の起源と変遷をたどり、理論的な枠組みを学びます。そして、気候変動や AI 開発といった具体的な政策課題にこれらの原理を適用する方法を議論します。

Today's society faces many challenges, including climate change, inequality, health, and technology. In this class, students will learn to approach these challenges with ideas such as effective altruism and long-termism.

Effective altruism is a philosophy that aims to maximize the well-being of as many people as possible. It provides a criterion for determining whose well-being should be prioritized in the face of limited resources. Long-termism advocates the importance of going beyond short-sighted interests and taking into account the well-being of future generations.

The class will trace the origins and evolution of these ideas and learn about their theoretical framework. We will then discuss how to apply these principles to specific policy issues such as climate change and AI development.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：文献報告とディスカッション
- 3 回：文献報告とディスカッション
- 4 回：文献報告とディスカッション
- 5 回：文献報告とディスカッション
- 6 回：文献報告とディスカッション
- 7 回：文献報告とディスカッション
- 8 回：文献報告とディスカッション
- 9 回：文献報告とディスカッション
- 10 回：文献報告とディスカッション
- 11 回：文献報告とディスカッション
- 12 回：文献報告とディスカッション
- 13 回：文献報告とディスカッション
- 14 回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各授業の準備として、文献を注意深く読み、疑問点や論点を「書誌レジュメ」としてまとめること。発表者は、発表のアウトラインを作成し、報告を行うための十分な準備をすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加度:20% 報告内容:30% 書誌レジュメ:50%

全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

ウィリアム・マッカスキル 見えない未来を変える「いま」 みすず書房 2024 9784622096696 ○

ピーター・シンガー あなたが世界のためにできる たったひとつのこと NHK 出版 2015 9784140816929

○

参考文献 / Readings

産業・労働社会学

Sociology of Work

李 ミン珍 (LEE MINJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX111

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

近年の産業・労働社会学分野における諸研究で展開されている諸議論を検討し、理解するとともに将来の研究者としての専門性をはぐくむ。

Students will review and understand the latest studies as well as classical ones of the industrial and labor sociology.

授業の内容 / Course Contents

産業・労働社会学において議論されている諸テーマ、すなわち雇用形態・就業形態の多様化（非典型雇用、雇用関係によらない働き方（独立請負、フリーランスやギグワークなど）、労働市場における流動性と転職、働き方における柔軟性、長時間労働とワーク・ライフ・バランス問題、仕事の自律性と裁量労働、成果主義とモチベーション、サービス労働、感情労働、仕事におけるジェンダー不平等問題、若者の労働志向、外国人労働者、非正規労働者の労働運動、社会運動ユニオニズムなどについて議論し、理解を深める。授業では、これらのテーマに関する諸文献を講読し、議論する。講読文献は、初回で参加者と相談して決める。

Studies of the industrial and labor sociology have dealt with many topics, for example, motivation to work, autonomy and control at work, internal labor market system, industrial relations, emotional labor, irregular types

of employment, performance-based pay system, flexible work system, overwork problem and work-life balance, gender inequality at work, foreign workers problem, social movement unionism and so on. Students will read and discuss studies which examines some of above-mentioned topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction：講読文献の紹介
- 2 回：文献講読及びディスカッション
- 3 回：文献講読及びディスカッション
- 4 回：文献講読及びディスカッション
- 5 回：文献講読及びディスカッション
- 6 回：文献講読及びディスカッション
- 7 回：文献講読及びディスカッション
- 8 回：文献講読及びディスカッション
- 9 回：文献講読及びディスカッション
- 10 回：文献講読及びディスカッション
- 11 回：文献講読及びディスカッション
- 12 回：受講生の研究発表
- 13 回：受講生の研究発表
- 14 回：講読諸文献に関する総括ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で講読予定の文献を読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 授業内発表:50% 研究発表:20%

いずれの評価項目についても博士前期課程よりも高い達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

初回で提示する。

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する。

都市社会学

Urban Sociology

西山 志保 (NISHIYAMA SHIHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： SX112
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC7010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学部での社会学の学びを前提として、大学院レベルでの都市社会学に関する基本的な視座・理論・方法についての知識を得ること。博士課程前期課程では、都市社会学の基礎から応用までの理論的知識を身につけること、さらに博士課程後期課程では、理論を踏まえて実践を分析する視座を検討する。

授業の内容 / Course Contents

都市社会学の基本的な視座・理論・方法について、講義および基礎的文献の講読を通して学ぶとともに、ディスカッションなどを通して、都市社会学および現代都市の問題への理解を深めていく。授業の内容については受講者の数、学習レベル、希望などを踏まえて変更することがある。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：講義(1) シカゴ学派の視点その 1
- 3 回：講義(2) シカゴ学派の視点その 2
- 4 回：講義(3) シカゴ学派の方法
- 5 回：文献講読とディスカッション(1)

- 6回：文献講読とディスカッション(2)
 7回：文献講読とディスカッション(3)
 8回：講義(4) 新都市社会学の視点
 9回：講義(5) 新都市社会学以降の展開
 10回：文献講読とディスカッション(4)
 11回：文献講読とディスカッション(5)
 12回：文献講読ディスカッション(6)
 13回：講義(7) 日本の都市社会学の展開
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献のほか、必要な都市社会学およびその周辺領域の文献を積極的に講読すること。また、授業のディスカッションに積極的参加して、発言することを求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 前期課程では、授業への参加状況および中間レポートの総合評価、加えて後期課程では、別途課題を課すなど、高度な達成水準を要求する:100%

テキスト / Textbooks

初回の授業時に、受講生の状況および希望を勘案して決定する。基本的には日本語文献を選択する予定であるが、場合によっては英語文献とすることもありうる。

参考文献 / Readings

松本康編 『都市社会学・入門』改訂版 有斐閣 2022 9784641222076

環境社会学

Environmental Sociology

環境社会学

藤川 賢 (FUJIKAWA KEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX113

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

環境問題の事例研究の比較検討を通して、共通の課題や社会的背景などを考察するための洞察力を身につける。

環境社会学の理論展開や調査方法などに課する知識を身につける。

先行研究との関係などを踏まえた研究課題として、自分自身の研究計画を進める。

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に着けることを目標とする。

Through a comparative study of case studies of environmental issues, acquire the insight to consider social backgrounds.

Acquire knowledge related to the theories and research methods in environmental sociology.

Build your own research plan based on the relationship with previous research.

授業の内容 / Course Contents

このクラスでは、環境問題の社会学的研究の講読を軸にする。国内外の主要な事例・テーマを追いつつ、そこで示される概念や理論を検討していく。比較や議論を通して、時代、国・地域、関係者の行動などの条件によ

って異なる部分と、多くの事例に共通する構造的な特徴を考え、自分自身の研究テーマに結びつけていく。扱う事例や文献は、参加者の関心などに応じて変更の可能性がある。

This class will focus on sociology of environmental issues. We will read some textbooks on major cases and themes from Japan and abroad, and examine the concepts and theories presented there. Through comparisons and discussions, students will consider commonalities and differences between them and link them to your own research themes. The cases and textbooks may change depending on the interests of the participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入 環境社会学の概説、参考文献の紹介
- 2 回：環境汚染と健康影響 公害の歴史と被害の拡大、潜在化
- 3 回：産業公害の展開 水俣病の拡大における地域社会と差別
- 4 回：環境汚染における自然と地域文化の意味 新潟水俣病などの事例から
- 5 回：加害・被害と解決過程 イタイイタイ病などの事例から
- 6 回：公害対策とリスク・汚染の広域移動
- 7 回：公害輸出と環境汚染のグローバル化
- 8 回：グローバル企業と途上国の環境問題 ボパール災害の歴史から
- 9 回：被害者運動の意味 反公害運動の系譜
- 10 回：被害者運動の展開と現状 食品公害と消費者運動
- 11 回：リスク評価をめぐる課題 化学物質と安全性を求める運動
- 12 回：環境正義論 リスク社会の進展と環境差別への指摘
- 13 回：環境正義の理論展開 手続き的正義と社会参加
- 14 回：復習 環境と社会の関係

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回のテーマについては、授業内で指示する文献をあらかじめ読んでおくことが求められる。報告や質疑などについては授業内で決めていく。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での報告・レポート:50% 授業参加・発言:50%

すべての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

藤川賢・友澤悠季編 『なぜ公害は続くのかー潜在・散在・長期化する被害』 新泉社 2023
9784787723017 -

参考文献 / Readings

関礼子・原口弥生編 『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか』 新泉社 2023 9784787723031
茅野恒秀・青木聡子編 『地域社会はエネルギーとどう向きあってきたのか』 新泉社 2023
9784787723024

メディア社会学

Sociology of Media

井川 充雄 (IKAWA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： SX114
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC7010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

メディア社会学の基礎的知識を習得するとともに、その射程の広がりを理解するとともに、自己の研究へ応用する視点をつかむ。

Students will acquire basic knowledge of media sociology and understand the breadth of its scope.

授業の内容 / Course Contents

メディア社会学とは、きわめて学際的な学問である。近年のメディアの大きな変容とともに、メディア社会学の扱う領域も拡大している。

本授業では、テキストの精読を通して、メディア社会学について多角的に学ぶ。このことによって、履修者は、これから行う自分の研究の基礎を築いてほしい。

In recent years, media has developed rapidly thanks to technological progress, spreading its influence Media sociology

is a highly interdisciplinary discipline. Along with the recent major transformation of the media, the field of media

sociology is also expanding.

In this class, students will learn about media sociology from various perspectives through close reading of texts. Through these, students will build the foundation of the future researches.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：『入門メディア社会学』（1）
- 3回：『入門メディア社会学』（2）
- 4回：『入門メディア社会学』（3）
- 5回：『入門メディア社会学』（4）
- 6回：『入門メディア社会学』（5）
- 7回：『入門メディア社会学』（6）
- 8回：『入門メディア社会学』（7）
- 9回：『入門メディア社会学』（8）
- 10回：『入門メディア社会学』（9）
- 11回：『入門メディア社会学』（10）
- 12回：『入門メディア社会学』（11）
- 13回：『入門メディア社会学』（12）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は、指定したテキストはもちろん、授業時間外に関連する文献を読むことによって、より多角的に理解を深めることが必要である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の発表:60% 授業内の討論:40%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

井川充雄・木村忠正編 『入門メディア社会学』 ミネルヴァ書房 2022 9784623094271 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業では、毎回レポーターを決め、テキストの内容を深く理解するとともに、参加者の議論によって、発展的検討を行う。

文化人類学

Cultural Anthropology

文化人類学理論史研究

木村 自 (KIMURA MIZUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX115

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

1860年代から2000年代までに至る文化人類学の理論史を概観し、人類学理論のパラダイム転換の裏にある思想・視点を明らかにする。

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に着けることを目標とする。

To clarify and understand the overview of the theoretical history of cultural anthropology from the 1860s to the 2000s.

授業の内容 / Course Contents

19世紀後半にヨーロッパ・アメリカで生まれた人類学は、他者を理解することをめぐって数々のパラダイム転換を遂げた。そのパラダイム転換の歴史的軌跡は、進歩史観と博物学的研究を中心とした1860/70年代から1920/30年代までの第1期、フィールドワークに基づきコミュニティ内部の有機的統合を模索した1920/30年代から1970/80年代までの第2期、民族誌記述の政治性を批判し、文化的統合性よりも流動性と生成を焦点化した1980/90年代の第3期、さらに民族誌批判を乗り越えて新たな人類学的視点を提示しようとする1990年代以降の第4期に大きく分けることができる。本講義では、この4期の歴史展開における思想的背景をあぶ

りだし、今日の文化人類学の歴史的な位置づけを明らかにする。(授業計画は、授業の進捗に応じて変更することがあります)

Born in Europe and the United States in the late 19th century, anthropology has undergone several paradigm-shifts. In this lecture, the historical trajectory of the paradigm-shifts divided into four periods; the first period from the 1860s / 70s to the 1920s / 30s, the heyday of the evolutionism and the natural history, the second period from the 1920s / 30s to the 1970s / 80s, which sought the organic integration based on community fieldworks. the se1920 / which sought organic integration within the community based on fieldwork. The third period of the 1980s / 90s, which criticized the politics of ethnographic writing and focused on fluidity and generation rather than cultural integrity. The fourth period since the 1990s, trying to overcome criticism of writing culture shock and present a new anthropological perspective. In this lecture, we will discuss the ideological background of the historical development of these four periods. In addition, it also explores the historical location of cultural anthropology today. (The plan will be changed depending on the course progression.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション——講義の構造
- 2 回：一卵性双生児としての社会学と人類学——「文明」と「未開」への問
- 3 回：文化的多様性と近代性を結びつける——人類学における進化
- 4 回：人類学における「機能」という考え方（1）——共同体研究
- 5 回：人類学における「機能」という考え方（2）——「科学」としての人類学
- 6 回：人類学における「構造」概念（1）——主体の消滅
- 7 回：人類学における「構造」概念（2）——構造から実践へ
- 8 回：人類学における「文化」の焦点化——アメリカ人類学と文化の解釈
- 9 回：人類学における政治と詩——ライティングカルチャーショック
- 10 回：「私」の民族誌——実験的民族誌
- 11 回：「世界」のなかの民族誌——世界システムと多現場民族誌
- 12 回：再び「近代」へ（ただし未完の）——アクターネットワークとハイブリッド
- 13 回：「存在論的転換」をとりあえず理解する
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で指示する参考文献に目を通すこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:100%

すべての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

とくになし。

参考文献 / Readings

竹沢尚一郎 『人類学的思考の歴史』 世界思想社 2007 9784790712695

太田好信・浜本満 『メイキング文化人類学』 世界思想社 2005 4790711021

ティム・インゴルド 『人類学とは何か』 亜紀書房 2020 9784750515953

松村 圭一郎他 『文化人類学の思考法』 世界思想社 2019 9784790717331

前川啓治他 『21世紀の文化人類学』 新曜社 2018 9784788515826

その他の参考文献については、各回の授業において指示する。

カルチュラルスタディーズ

Cultural Studies

文化に対する批判的研究と、実践のために

小泉 元宏 (KOIZUMI MOTOHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化研究（カルチュラルスタディーズ）に関する理論的研究と文化実践を、大学院レベルでおこなっていくための視座を獲得しながら、自身の研究テーマに関する調査や、学術論文・博士論文執筆、学会等での研究発表に生かしていくこと。

授業の内容 / Course Contents

近現代における諸文化と、社会的諸主体・権力との関係性などに関する文化批評理論などの理論研究を行うとともに、随時、フィールドワークやグループワークなどを行う。また、各自の問題意識やテーマに基づいた研究発表およびディスカッションなども実施する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション、研究紹介

2 回：フィールドワーク準備

3 回：文献講読・ディスカッション

4 回：文献講読・ディスカッション

- 5回：文献講読・ディスカッション
 6回：フィールドワーク／プロジェクト
 7回：文献講読・ディスカッション
 8回：文献講読・ディスカッション
 9回：文献講読・ディスカッション
 10回：フィールドワーク／プロジェクト
 11回：研究発表、グループメンタリング
 12回：研究発表、グループメンタリング
 13回：研究発表、グループメンタリング
 14回：グループ・プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、ならびにグループプレゼンテーションや研究発表では、事前の発表準備等が必須となる。また授業中に取り扱う理論や実践活動に関して、自ら調査を行うことで、授業内容への理解を深めること。さらに、授業内容を学術論文や博士論文執筆、あるいはそれらに向けた調査研究や学会発表などに積極的に生かしながら、自身の研究調査課題を発展・深化させていくことを期待したい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加（文献講読・グループワーク・研究発表・ディスカッションへの参加ほか）：100%

各評価にあたっては、高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

履修者の関心に合わせ、指定する。なお英語文献が含まれることもある。

参考文献 / Readings

都度、紹介する。

科学技術社会論

Science and Technology Studies

綾部 広則 (AYABE HIRONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会学研究科
科目コード等： SX117
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SOC7010
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自身の研究テーマと関連づけながら科学技術社会論の基本的な考え方を学ぶ。

The purpose of this lecture is to learn the basic concepts of STS (Science, Technology and Society/Science and Technology Studies) in relation to your own research theme.

授業の内容 / Course Contents

科学技術と社会に関する講義と基本文献の講読を行う。受講者数にもよるが、最初の数回程度は、科学技術社会論の概略を講義し、その上で、残りを基本文献の輪読にあてる予定（文献についてはオリエンテーションの折に相談して決める）。なお、科学技術と銘打っているが、自然科学・工学に関する予備知識は必要としないので、気楽に受講してください。

The course consist of lectures and readings of basic literature on STS. Depending on the number of students, the first few lectures will be an overview of STS. Then, basic literature on STS will be read in the remaining few sessions. (assignments will be decided upon at the orientation). Although the course is called "science and technology," no prior knowledge of natural science or engineering is required.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：科学技術社会論とは何か（1）
 3回：科学技術社会論とは何か（2）
 4回：科学技術社会論とは何か（3）
 5回：科学技術社会論とは何か（4）
 6回：科学技術社会論とは何か（5）
 7回：文献講読（1）
 8回：文献講読（2）
 9回：文献講読（3）
 10回：文献講読（4）
 11回：文献講読（5）
 12回：文献講読（6）
 13回：文献講読（7）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

その回で扱う文献について事前に熟読し、論点をまとめておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ディスカッションへの貢献度:50% 割り当てられた文献に関する報告:50%

いずれの項目についても博士前期課程よりも高い達成基準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

塚原東吾他編著 『よくわかる現代科学技術史・STS』 ミネルヴァ書房 2022 9784623092154

調査計画法

Research Design

量的調査と質的調査による混合アプローチの可能性

大崎 裕子 (OSAKI HIROKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	SX118
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC7010
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

社会調査を実施する際の基本的な事項を理解し、実査に活用できるようになる。

本授業の履修を通して、研究論文執筆において自身の仮説を検証するにあたり、適切な調査を実施し、収集したデータにもとづいて、エビデンスにもとづく科学的な議論ができるようになる。

The purpose of this class is to provide students with an understanding of the basics of social research so that they can apply them in actual research.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の基本的な考え方及び各種調査手法の特徴を学んだうえで、リサーチクエスションの立て方や仮説の構築、調査の企画・設計、データの収集・整理・分析、調査結果の報告に至る方法を取得する。あわせて調査倫理についても学ぶ。既存の理論や先行研究を考慮した上で適切な調査を企画・実施できるようになることを目標とする。さらに、量的調査と質的調査を統合した研究計画について学ぶ。

After learning the basic concepts of social research and the characteristics of various research methods, students

will acquire methods for setting research questions, constructing hypotheses, planning and designing surveys, collecting, organizing, and analyzing data, and reporting survey results. Students will also learn about research ethics. The goal is for students to be able to plan and conduct appropriate surveys, taking into account existing theories and previous research. In addition, students will learn how to design a research plan that integrates quantitative and qualitative research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：社会調査の種類
- 3回：社会学における理論と検証
- 4回：社会調査の倫理と今日的課題
- 5回：量的調査と質的調査の混合アプローチ
- 6回：調査計画(1)：問題関心と先行研究レビュー
- 7回：調査計画(2)：リサーチクエスションと仮説構築
- 8回：調査票調査(1)：調査票の設計とワーディング
- 9回：調査票調査(2)：調査対象とサンプリング
- 10回：調査票調査(3)：データの収集とコーディング・クリーニング
- 11回：調査票調査(4)：データ分析と結果の解釈
- 12回：ヒアリング調査(1)：調査項目の整理、対象者の選定と関係形成
- 13回：ヒアリング調査(2)：データ収集と分析結果の整理
- 14回：まとめ：調査票調査とヒアリング調査の統合的検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 量的・質的調査を問わず、自身の研究関心に関連する先行研究を多数読んでおくこと。
- ・ 授業全体をとおして、自身の研究計画にかんする実習課題が出される。授業時間内で完結しない分は、授業時間外に作業を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内提出物:40% 講義への参加度:30% 最終レポート割合：:30%

全ての評価方法において、博士課程前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

轟亮・杉野勇・平沢和司編 『入門・社会調査法〔第4版〕：2ステップで基礎から学ぶ』 法律文化社
2021 9784589041418 ○

参考文献 / Readings

- 森岡清志編 『ガイドブック社会調査第2版』 日本評論社 2007 9784535582460
 佐藤郁哉 『社会調査の考え方 上』 東京大学出版会 2015 9784130520263
 佐藤郁哉 『社会調査の考え方 下』 東京大学出版会 2015 9784130520270

松本渉 『社会調査の方法論』 丸善出版 2021 9784621306314

盛山和夫 『社会調査法入門』 有斐閣 2004 9784641183056

参考文献は授業時に提示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

インターネットにつながるノート PC を用意してください。

その他/ Others

学部レベルの社会調査法や社会統計学の知識（クロス集計や平均値の比較、分析結果のグラフ作成など）がある事を前提とする。それらについては、各自が自主的に習得しておくこと。

量的分析法

Statistical Analysis

中級多変量解析

三輪 哲 (MIWA SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会学研究科

科目コード等： SX119

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SOC7010

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

計量社会学での応用で活用される、中級レベルの多変量解析技法を学ぶ。

博士後期課程の院生については、それら技法を用いた論文が査読誌へとアクセプトされる水準まで能力向上する。

To Learn intermediate-level multivariate analysis techniques used in quantitative sociology.

For graduate students in the doctoral program, their skills will improve to the point where papers using these techniques will be accepted by refereed journals.

授業の内容 / Course Contents

社会統計学や多変量解析の基礎を学んでいる事を前提に、それらの手法、とりわけ中級レベルのモデルについて、学術論文を理解することや、適用して自身の論文を執筆するための知識・技能を身に付ける事を目的とする。社会的な立場に基づいて、データの収集やハンドリングから、解析そして解釈までを学ぶ。統計ソフトウェア SPSS を使用した実習もおこなう。

Assuming that graduate students have learned the basics of social statistics and multivariate analysis, you will

need the knowledge and knowledge to understand academic papers and apply those methods, especially intermediate-level models, to write your own papers. The purpose is to acquire skills. Learn everything from data collection and handling to analysis and interpretation based on a sociological standpoint. Students will also practice using the statistical software SPSS.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：量的分析の応用のために
- 2 回：記述統計とハンドリング
- 3 回：カテゴリカル変数の関連
- 4 回：量的変数の関連
- 5 回：重回帰分析の基礎
- 6 回：重回帰分析の応用
- 7 回：二値カテゴリカル従属変数の解析
- 8 回：多値カテゴリカル従属変数の解析
- 9 回：連続時間の生存分析
- 10 回：離散時間の生存分析
- 11 回：マルチレベル分析
- 12 回：パネルデータに対するマルチレベル分析の適用
- 13 回：傾向スコア法
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト該当箇所の予習と、前回内容に基づく課題による復習をすることが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 提出課題:30% 授業内小テスト:30% 最終レポート割合：:40%

すべての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

三輪哲・林雄亮 『SPSSによる応用多変量解析』 オーム社 2014 4274050114 ○

参考文献 / Readings

康永秀生ほか 『できる! 傾向スコア分析: SPSS・Stata・R を用いた必勝マニュアル』 金原出版 2017 4307004841

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中にソフトウェア SPSS を使用するので、各自何らかの形で準備すること。

質的分析法

Qualitative Research

小林 多寿子 (KOBAYASHI TAZUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会学研究科
科目コード等：	SX120
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SOC7010
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	他研究科生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

質的調査研究の系譜をたどり、社会学における質的調査を概観的に把握したうえで、質的調査の方法や分析について具体的な事例をとおして学び、質的調査研究の基礎力と実践力を身につけることをめざす。自らの研究テーマに引き付けて、質的分析法を応用したりサーチデザインする力を培う。

授業の内容 / Course Contents

社会調査法における質的研究に焦点を合わせ、質的研究の系譜をたどり、近年の質的研究成果を概観しながら、質的研究の事例をとおして多様な質的方法の実際について学ぶ。フィールドワークから質的データの収集、分析、解釈、論文の作成に至るまでの社会調査の全過程を、さまざまな文献をもとに検討・討議する。昨今は、社会調査において調査倫理が不可欠となっているので、調査協力者と調査者の関係や当事者研究などの可能性についても検討する。ライフストーリー調査の方法論を基礎に、フィールドワークの方法、インタビュー法、ナラティブ論、エスノグラフィの書き方などが検討、考察の焦点となる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：授業の進め方
- 2回：質的データとは何か：個人記録、文書資料、新聞雑誌記事、音声、映像など

- 3回：質的調査の系譜：社会学における質的調査への道
 4回：質的調査法の種類：ドキュメント分析、ライフヒストリー/ライフストーリー法、参与観察など
 5回：質的調査の技法：フィールドワークの方法
 6回：質的調査の技法：多様なインタビュー法—相互行為としてのインタビュー
 7回：質的調査の技法：「人生」へのアプローチ—ライフヒストリー/ライフストーリーの考え方
 8回：質的調査の技法：アーカイヴ調査とアーカイヴ資料の可能性
 9回：質的データの分析・解釈：フィールドノートとトランスクリプト
 10回：質的データの分析・解釈：語りの社会的・文化的文脈
 11回：質的データの分析・解釈：「分厚い記述」と生活世界へのまなざし
 12回：調査実践と調査倫理の諸問題
 13回：受講生による調査計画と調査方法：リサーチデザインと成果の呈示
 14回：全体のふりかえりと質的調査の課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

基礎的な関連文献を読むこと、各自の研究テーマを深めること

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 授業内報告:30% 最終レポート割合 :40%

すべての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

小林多寿子編 『ライフストーリー・ガイドブック』 嵯峨野書院 2010 9784782305096 ○

参考文献 / Readings